



# ICT×探究を、 その手に。



先生方の負担が大きい探究学習とICT活用。  
“アクチュアル”はその課題解決を支援します。

内容解説資料



大修館 探究オンライン

# ACTUAL

アクチュアル

## ご利用料金

生徒一人あたり  
年間 **1,430**円(税込)

まずはデモアカウントで  
お試しください！

デモアカウントお申込みフォーム▶  
<https://forms.gle/Z1E18FZGJPCsM1Gm7>



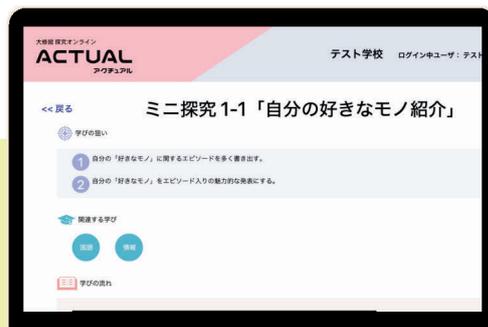
# 多様な教材が探究の課題を解決

導入に最適！「まずはやってみる」ための教材を多数提供

探究の手法やプロセスに慣れる  
40本の教材をご用意

## ミニ探究・ミドル探究

短いコマ数で完結する教材を約40本収録。教材を選んで使うことで、「総合的な探究（学習）の時間」の授業計画をスムーズに作成できます。また、ワークシートや授業展開案を完備しており、授業準備の手間なく探究学習を進められます。



### ミニ探究

1コマから  
OK

導入に  
最適

手法が  
身につく

### ミドル探究

5～10コマ  
で完結

プロセスを  
学べる

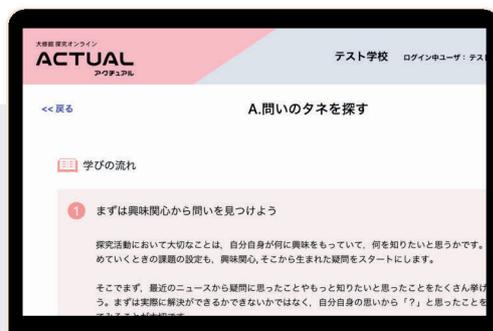
社会課題に  
取り組める

具体的なアドバイスが生徒のやる気と本格的な探究をサポート

探究の手法を詳しく学び、  
自走的な探究へ導く

## 調べ学習編・課題研究編

課題の設定～まとめ・表現の各ステップでの取り組み方を丁寧に解説した教材です。授業計画は決まっているが、生徒ごとに課題設定が異なる活動を指導するのは負担が大きい…そんな学校を支援する、いわば探究学習の副読本です。



### 調べ学習編

イロハから  
解説

解説+演習  
で力がつく

取り組み方  
を網羅

### 課題研究編

高度な探究  
を解説

ひな型等を  
多数収録

生徒主体の  
探究を実現

# 充実の機能がICT化の課題を解決

オンラインサービスの“アクチュアル”は、  
授業での端末活用の機会を創出するとともに、  
探究学習に関する様々な情報管理の負担を軽減します。



## 提出物管理の課題を解決！ 学習管理機能

オンラインの学習管理機能で  
提出物のポートフォリオ化を実現します。



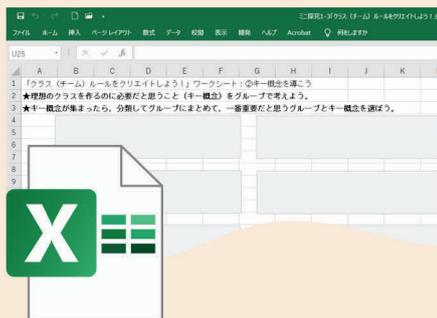
▲ 先生アカウントでは生徒の提出状況を確認できます



▲ 生徒アカウントでは生徒自身が活動履歴を確認できます

## 情報活用能力育成の課題を解決！ 各種ファイルの活用

ひな型となる様々なファイルの提供を通して、  
ICT活用の機会を作り出していきます。



▲ 整理・分析の力が身につく  
ワークシート



▲ 発表資料作成の力を育む  
発表テンプレート

## iPad・Chromebook でも使えます

ファイルは Microsoft Office の形式で  
用意していますが、Pages・Keynote  
といった Apple 製アプリでも編集可能です。  
また、Google Workspace の各種形式でも  
変換せずすぐに使えるファイルを  
ご提供しています。



# 探究の手法やプロセスに慣れる 40本の教材をご用意

活動の流れやワークシートが画面上に示されており、  
画面に沿って進めていけば探究学習の授業が成り立ちます。

大塚市 探究オンライン ACTUAL アグジャル

テスト学校 ログイン中ユーザ: テスト生徒 ログアウト

<< 戻る ミニ探究1-4 「学校の中の危険な場所を探す」 選択中クラス 1年1組

🎯 学びの狙い

- 1 個人の有する課題意識は、興味・関心に基づいて異なっていることが理解できる。
- 2 自分を取り巻く課題と社会を取りまく環境のつながりについてIT機器を効果的に用いて、情報を収集・整理することができる。
- 3 探究を通して自己を見つめ、自分の個性や特徴に向き合う。

📖 関連する学び

📄 学びの流れ

🎥 危険な場所はありますか？

📄 Advice

📄 Notice

- 1 ワークシートを讀んで、一人ひとりが興味のあるSDGsの目標に○を付けていこう。
- 2 学校の中から課題だと思ふ場所を思ひつけて、写真や動画に取らぬていこう。
- 3 見つけた課題が、SDGsや社会課題とどう関係するか、グループで考えてまてめよう。
- 4 課題解決に向けて、自分たちが「今できること」を考ててみよう。
- 5 これまで考てきたことを、発表資料にまてめよう。
- 6 SDGsや社会課題との関係を意識しながら、改めて学校の中に課題がないか調べてみよう。
- 7 課題を採して気づいたことをまてめよう。
- 8 発表資料を完成させよう。
- 9 発表ブースを作って、発表していこう。
- 10 発表で披露された内容をまてめよう。
- 11 学びを振り返ろう。

📄 活動用資料

📄 活動メニュー

## ミニ探究・ミドル探究の教材構成例

### 1 導入

#### 学びの狙い

●その単元（教材）での学習目標を生徒に明示します。

#### ショートムービー

●短い動画で活動内容を紹介します。

### 2 展開・活動

#### 学びの流れ

●細かなステップで取り組み方を明示しています。

●取り組む際に必要なワークシートをダウンロードできます。

- 3 見つけた課題が、SDGsや社会課題とどう関係するか、グループで考えてまてめよう。  
[ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」ワークシート.docx]
- 4 課題解決に向けて、自分たちが「今できること」を考ててみよう。  
[ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」ワークシート.docx]
- 5 これまで考てきたことを、発表資料にまてめよう。  
[ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」発表テンプレート.pptx]
- 6 SDGsや社会課題との関係を意識しながら、改めて学校の中に課題がないか調べてみよう。  
[ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」ワークシート.docx]

●取り組むに当たってのアドバイスや注意点も示しています。

### 3 振り返り

●活動の最後に、「できたこと」「できなかったこと」  
「今後取り組んでみたいこと」を記録・提出できます。

## 提出

●画面下部に、ワークシートが  
まとめられています。

●ワークシートは先生が提出期限を  
設定できます。

●先生がグループを設定すれば、  
グループ掲示板で他のメンバーと  
やり取りできます。

グループ掲示板

グループ提出物送信

個人提出物送信

自己評価シート送信

他の人の成果物確認

1

導入

2

展開・活動

3

振り返り

提出

# ミニ探究・ミドル探究

教材例 … 探究学習に必要な資質・能力を学べる教材が揃っています。

1コマからOK  
**ミニ探究**

- 自分の好きなモノ紹介
  - 学校の中の危険な場所を探す
- ▶ **主体性・協働性を高めます。**

- AとBどちらがいいか？
  - アンケートを作ってみよう
- ▶ **探究学習の手法が身につきます。**

5～10コマで完結  
**ミドル探究**

- 地域のために何ができるか？
  - SDGsを自分ごと化する
- ▶ **探究学習のプロセスを学べます。**

●ミニ探究・ミドル探究の全単元（教材）一覧や年間計画例はこちらから入手可能です▶



## 授業計画や授業準備の課題を解決！

### 年間計画の作成を容易にします

約40本\*の教材から、学校の授業時間数に合わせて選ぶことで、「総合的な探究（学習）の時間」の年間計画を作成しやすくなります。 \*2024.09現在

学期	学習内容
1	オリエンテーション
	講演会
	ミニ探究
2	進路ガイダンス
	ミニ探究
	ミニ探究
	ミニ探究
3	ミドル探究
	成果発表会

▲ 年間計画の一例

### ワークシートと指導案が付いています

授業展開案（指導案）とワークシートがあるので、準備も授業も手間がかかりません。また、授業展開案をもとに指導することで、先生方の指導のレベルを一定に保てます。

5. 授業の展開  
※2時間で実施の場合、2限目の内容を家庭学習で補う。  
【1限目】○指示・発問 □要点

過程	生徒の学習活動	指導内容	指導上の留意点
導入 5分	<全体活動> ・グループになって座る（4～5人一組）。 ・本時の学習活動を把握する。	・本時の狙いを伝える。 ○探究することにおいて「意識的」に見ることの大切さを理解させる。	・事前にグループ分けを実施し、時間確保を図る。
展開Ⅰ 10分	<グループ活動> ・ワークシートにある、SDGsの17の目標に関して興味あるものを丸で囲む。 □ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」ワークシート.docx	○ワークシートを開くよう指示する。 ○これから校内を探索し、課題を見つけることを伝える。	□ワークシートの活動前に校内マップを生徒へ配布しておく。 ・SDGsへの興味・関心がすぐに湧かなければ、中学校で学習してきた語句や、聞いたことのある語句を選ばせてもよい。
展開Ⅱ 30分	<グループ活動> ・校内を散策し、ワークシート・ICT機器を用いて、課題と思うものを記録する。 □ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」ワークシート.docx	○自分たちの興味・関心の観点から探し、記録する。	□写真に収めるなど、ICT機器の効果的な活用を促した。

▲ 授業展開案（指導案）

### 教材を自作する必要はありません

様々なテーマ・ジャンルの教材が毎年追加されていくので、生徒の興味・関心や教育目標に合った教材が見つかります。

ミニ探究 【導入レクリエーション】

<input type="checkbox"/>	1-1	ミニ探究 1-1「自分の好きなモノ紹介」
<input type="checkbox"/>	1-2	ミニ探究 1-2「他者の好きなモノ紹介」
<input type="checkbox"/>	1-3	ミニ探究 1-3「クラス（チーム）ルールをクリエイティブしよう！」
<input type="checkbox"/>	1-4	ミニ探究 1-4「学校の中の危険な場所を探す」
<input type="checkbox"/>	1-5	ミニ探究 1-5「中学の総合的な学習で何を学んだか」
<input type="checkbox"/>	1-6	ミニ探究 1-6「修学旅行の思い出をポスターや動画ブックを作ろう」

▲ ミニ探究 目次の一部

\*2024.09現在

### リアルな社会課題に取り組みます

企業が取り組む社会課題の解決にトライできる教材を複数収録しています。

カンタス航空は世界初のごみゼロフライトを実現

### ▲ ミドル探究の例

ネットゼロを目指して～カンタス航空探究プログラム～



# 探究の手法を詳しく学び、 自走的な探究へ導く

生徒独自・学校独自の課題に挑む探究学習をサポートする解説を画面上に掲載。実践例やすぐ使えるひな型も多数収録しています。

大塚 探究オンライン ACTUAL アラビヤナール

テスト学校 ログイン中ユーザ: テスト先生 ログアウト

<< 戻る B.問いを具体化して育てる

Aの段階では、まだまだ何から手をつけていいかわからない状態なのではないでしょうか。そこで、作った「問い」に様々なつっこみをする事で考える対象を具体的にしていきたいと思います。

📖 学びの流れ

つっこみリスト(ぶつける問い)	・本当に?	・どういう意味?	・いつ(から/まで)
	「倫理性」	「定義」	「時間」
	「どこで?」	「たれ?」	「どうやって?」
	「空間」	「主体」	「経緯・方法」
	「どのような?」	「なぜ?」	「どうすべき?」
	「様態」	「因果」	「当為」
	「他ではどう?」	「これだけ?」	「これだったら?」
	「比較」	「一般」	「具体」
	「すべてそう?」	「これについて?」	
	「限定」	「特殊」	

(戸田山和久, 2012, 『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』, NHKブックス, pp.127)

例) 問い=バスケットボールはなぜアメリカで人気なのか?

⇒バスケットボールはいつ・どこで生まれたのか? 「時間」「空間」  
 ⇒バスケットボールは他にどの国で人気があるのか? 「比較」  
 ⇒どうしたら日本のバスケットボールは強くなるのか? 「経緯・方法」  
 ⇒バスケットボールがうまくなるにはどんな練習を取り入れるべきなのか? 「当為」  
 ⇒スリーポイントの成功率を上げるにはどんな練習をするよいか? 「具体」

**Task**  
最初の「問い」にさまざまなつっこみを入れて、どんどん具体的にしていこう。

## 探究のイロハから解説 調べ学習編

### 調べ学習編の教材構成例

#### 解説

- 探究の入口でつまづかないよう、丁寧に取り組み方を解説しています。
- できるだけ具体例を挙げ、生徒が活動のイメージをつかめるようにしています。

#### Task

- 学びをすぐに実践できる演習です。
- Taskを順に進めていけば、生徒自身の手で探究学習のプロセスを一通り回すことができます。

解説

Task

大塚 探究オンライン ACTUAL アラビヤナール

テスト学校 ログイン中ユーザ: テスト先生 ログアウト

<< 戻る (11) 研究計画書

📖 学びの流れ

問いを立て、どのように取り組むのかが見えてきたら、「研究計画書」を作成し、自分の探究についてきちんと整理しておくようにしましょう。設定した研究課題に対して、研究をどのように進めるかを計画し、言語化することで、計画の問題点等を発見することができます。その上で、計画を見直ししたり、研究の目標を確認したり、場合によっては、研究課題の修正を行う必要があることに気づくこともできます。研究計画書には以下の内容を書いておきましょう。以下の流れに沿ってまとめられるひな型を用意してあります。

研究計画書 (仮説検証型) .doc  
研究計画書 (仮説検証型でない) .doc

**1. 研究テーマ**

一読して研究内容がわかるように具体的に書きます。研究を進める過程で変更することもありますし、そのまま論文タイトルになる場合もあります。

**2. 背景**

自分がなぜこの「テーマ」を研究したいと思ったのか、「テーマ」に関して現在生じている問題といった社会的あるいは学問的背景を記し、問題意識や問題の所在を明らかにします。

**3. 課題・目的**

「背景」を受けて自分は何を疑問に感じなのか、何を明らかにしたいのかを、具体的に書きます。

**4. 仮説/現状**

仮説検証型探究がそうでないか、書く内容は異なってきます。仮説検証型探究については以下を参照してください。  
⇒【調】探究の方法論 (3) 文系の探究・理系の探究

◆仮説検証型の場合=仮説「課題・目的」を受けて、疑問に対して

## 高度な探究を解説 課題研究編

### 課題研究編の教材構成例

#### 解説

- 調べ学習編よりも高度かつ具体的な取り組み方を解説しています。
- 研究計画書のひな型、フィールドワークのチェックシートなど、生徒主体で活動を進められる資料を多数収録しています。

#### ▼ 資料ファイルの例

研究計画書 (仮説検証型) .doc  
研究計画書 (仮説検証型でない) .doc

⇒フィールドワーク\_チェックシート.docx

解説

# 調べ学習編・課題研究編

**項目例** …探究学習の各ステップでの取り組み方を丁寧に解説しています。

探究のイロハから解説

## 調べ学習編

- 【課題の設定】 …………… ● 問いのタネを探す
- 【情報の収集】 …………… ● 先行研究を用いて説明しよう
- 【整理・分析】 …………… ● 情報整理の方法
- 【まとめ・表現】 …………… ● スライド型ポスターを作ろう

高度な探究を解説

## 課題研究編

- 【課題の設定】 …………… ● 問いの立て方と仮説について
- 【情報の収集】 …………… ● シミュレーション
- 【整理・分析】 …………… ● 表計算ソフトの使い方
- 【まとめ・表現】 …………… ● レポート・論文の作成

● 調べ学習編・課題研究の項目一覧や年間計画例はこちらから入手可能です ▶



## 探究指導の課題を解決！

### 探究学習に必要な学びを網羅しています

探究学習の副読本として、必要な学びの項目を網羅しています。成果発表や論文作成まで年間を通して活用できるのはもちろん、必要な項目だけ確認するために使うことも可能です。

#### 年間計画の一例 ▶

(赤字…調べ学習編・課題研究編の項目やひな型)

学期	学習内容
1	<b>課題を設定し、研究計画書を作成</b> →ACTUAL 課題研究編 <b>研究計画書のひな型</b> を活用する
2	<b>アンケートを実施し、分析する</b> →ACTUAL 課題研究編 <b>アンケートチェックシート</b> を活用する →ACTUAL 調べ学習編 <b>整理分析の方法</b> ・ 課題研究編 <b>統計の手法</b> を参考にする
	<b>中間発表として、ポスターセッションを行う</b> →ACTUAL 調べ学習編 <b>スライド型ポスターを作ろう</b> ・ 課題研究編 <b>ポスターの作成</b> を参考にする
3	<b>研究論文を作成する</b> →ACTUAL 課題研究編 <b>レポート・論文の作成</b> を参考にする

### 事前学習もお任せください

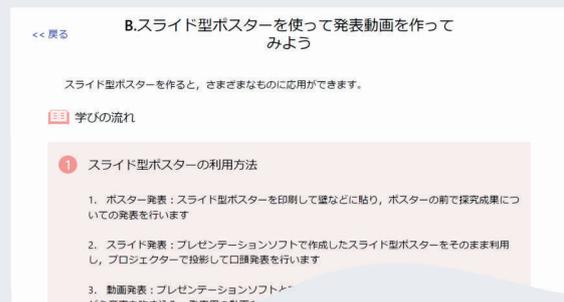
探究学習の意義や、やってはいけないことを生徒が理解できる解説を収録。オリエンテーションで活用できます。

探究の前に【事前学習】
A.なぜ探究を学ぶのか？
B.探究で何を学ぶのか？
C.活動を記録しよう
D.グループ学習の基本
E.「研究不正」に注意しよう
テーマの決め方【課題の設定】
◎ 課題について
A.問いのタネを探す

▲ 調べ学習編 目次の一部 \*2024.09現在

### 新しいツールも取り上げています

動画作成やウェブ会議サービス活用などの解説も収録。生徒自身の手でツールを用いた活動を実践していくことができます。



▲ 調べ学習編  
スライド型ポスターを使って  
発表動画を作ってみよう

# “アクチュアル”の教材構成

“アクチュアル”は、ミニ探究▶ミドル探究▶調べ学習編▶課題研究編の4ステップで教材を構成。導入教材を使ったコツ・スキルの習得から、生徒が自走できる探究活動へと、段階を追って取り組める構成にしています。

1

## ミニ探究

➡ 詳しくは **9** ページへ

「課題設定の方法」「情報の分析の方法」などポイントを絞って探究活動のコツを学びます。また、主体性や協働性を育める教材も数多く収録しています。1つの教材を2～3コマで終わられるため、探究活動の導入に最適です。

2

## ミドル探究

➡ 詳しくは **31** ページへ

設定されたテーマに沿って、探究のプロセスを一通り体験しながら手法を学んでいきます。1つの教材は5～10コマで構成されています。

3

## 調べ学習編

➡ 詳しくは **49** ページへ

課題設定から発表・振り返りまで、探究のプロセスに必要な情報やノウハウを体系的にまとめています。演習＋解説の構成で、生徒が主体的に学びます。

4

## 課題研究編

➡ 詳しくは **55** ページへ

生徒自らの力で探究を回していけるよう、フィールドワークや実験の手法、生徒自身による成果発表会の運営方法など、本格的な探究活動を支える解説を収録しています。

# ミニ探究 単元一覧 (2024.09.30現在)



マークを付けた単元は、この一部見本で活動内容や付属資料を全てご覧いただけます。

## 【導入レクリエーション】

- 1-1 「自分の好きなモノ紹介」
- 1-2 「他者の好きなモノ紹介」
- 1-3 「クラス(チーム)ルールをクリエイティブしよう!」
- 1-4 「学校の中の危険な場所を探す」
- 1-5 「中学の総合的な学習で何を学んだか」
- 1-6 「修学旅行 オリジナルガイドブックを作ろう」
- 1-7 「オープンキャンパスへ行こう!」
- 1-8 「仕事を知ろう～仕事インタビュー～」
- 1-9 「インターンシップに参加しよう!」
- 1-10 「プレゼン型三者懇談」
- 1-11 「商店街の活性化問題(ケースメソッド)」
- 1-12 「基地問題から考える沖縄の平和学習」

Pick Up!

P10



先生側の単元画面をご紹介します!

## 【話し合い+調べ学習】

- 2-1 「名言、格言、キャッチコピーの違いとは」
- 2-2 「AとBどちらがいいか?」
- 2-3 「急な階段って!?!」
- 2-4 「ざっくりと、でも緻密に」
- 2-5 「Aを実証するためには何をすればいい?(研究計画作り)」
- 2-6 「SDGs入門」
- 2-7 「インフォデミック(情報パンデミック)～その時あなたはどうしますか?～」
- 2-8 「脱炭素社会構築のアイデア(ジグソー法)」  
溝畑保之(常翔学園中学校・高等学校)
- 2-9 「CNN教材×SDGsワークシート」CNN教材提供:朝日出版社
- 2-10 「吸水ショーツをきっかけに、ウェルビーイングな社会について考える」  
豊島株式会社・株式会社日本旅行
- 2-11 「フィボナッチ数列を調べよう」小原美枝(神奈川県立鶴見総合高等学校)
- 2-12 「マラルディの角の秘密」小原美枝(神奈川県立鶴見総合高等学校)
- 2-13 「セッケン水の構造を探る」小原美枝(神奈川県立鶴見総合高等学校)
- 2-14 「生成AIと対話しよう」

## 【活動を伴う体験学習】

- 3-1 「ペーパータワー」
- 3-2 「紙コプター」
- 3-3 「アンケートを作ってみよう」
- 3-4 「“NASAゲーム”でグループワークの良さを実感」
- 3-5 「日本の子育て家庭の課題」岡かなえ(東洋大学京北中学高等学校)
- 3-6 「自分の暮らす地域の課題」岡かなえ(東洋大学京北中学高等学校)
- 3-7 「持続可能な学校のためのCMづくり」森大光(大阪府立豊島高等学校)
- 3-8 「西オーストラリアの魅力を伝えよう」ゴールドエデュケーションナルツアーズ
- 3-9 「ひな社長の挑戦」NPO法人企業教育研究会

Pick Up!

P21



生徒側の単元画面をご紹介します!

# 単元画面(先生画面)

## ▶ミニ探究1-4

### << 戻る

## ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」

選択中クラス  
1年1組

#### 🎯 学びの狙い

- 1 個人の有する課題意識は、興味・関心に基づいて異なっていることが理解できる。
- 2 自分を取り巻く課題と社会を取り巻く環境のつながりについてICT機器を効果的に用いて、情報を収集・整理することができる。
- 3 探究を通して自己を見つめ、自分の個性や特徴に向き合う。

#### 📖 関連する学び

保健  
体育

特別  
活動

教科との関連を明示。  
教科での探究活動にも  
使えます。

#### 📖 学びの流れ



冒頭に活動の  
ポイントを把握できる  
動画を掲載。

- 1 ワークシートを開いて、一人ひとりが興味のあるSDGsの目標に○を付けていこう。  
[ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」ワークシート.docx]
- 2 学校の中から課題だと思ふ場所を見つけて、写真や動画に収めていこう。  
[ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」ワークシート.docx]



#### Advice

自分の興味や関心をもとに、気になる場所を見つけていこう。



ミニ探究・ミドル探究は、単元画面で活動の流れを見ながら生徒は探究活動に取り組みます。  
先生が一つ一つ細かい指示を出す必要はありません。  
画面に沿って活動するうちに、生徒は探究の手法を自然と身に付けることができます。

**Advice**

見つけた課題は、校内マップに印を付けたり写真を貼ったりしておこう。

- 3 見つけた課題が、SDGsや社会課題とどう関係するか、グループで考えてまとめよう。  
[ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」ワークシート.docx]
- 4 課題解決に向けて、自分たちが「今できること」を考えてみよう。  
[ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」ワークシート.docx]
- 5 これまで考えてきたことを、発表資料にまとめよう。  
[ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」発表テンプレート.pptx]
- 6 SDGsや社会課題との関係を意識しながら、改めて学校の中に課題がないか調べてみよう。  
[ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」ワークシート.docx]
- 7 課題を探して気づいたことをまとめよう。  
[ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」ワークシート.docx]
- 8 発表資料を完成させよう。  
[ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」発表テンプレート.pptx]
- 9 発表ブースを作って、発表していこう。



**Notice**

自分が発表するとき以外は他のグループの発表を見学して、必ず一つは質問や意見を出すこと。

**10** 発表で指摘された内容をまとめておこう。  
[ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」]

**11** 学びを振り返ろう。

**活動用資料**

- PPTX
- ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」自己評価シート.xlsx
- ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」授業展開案【PDF版】.pdf
- ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」授業展開案【Word版】.docx

Google Classroom用の資料を入手

**活動メニュー**

- 配布資料設定
- グループ作成
- 作成グループ表示
- 提出物・評価入力
- 振り返り・評価確認

生徒だけでも取り組みやすいよう、細かいステップで活動の流れを表示。

ミニ探究・ミドル探究には、評価規準例付きの授業展開案を用意しています。

生徒の提出物の確認方法などはP63を参照してください。

# 授業展開案

## ▶ミニ探究1-4

各単元の  
目安となる授業時間数を  
明示。

### ミニ探究 1-4「学校の中の危険な場所を探す」授業展開案

#### 《想定時間(コマ)数》

・2~3 時間

#### 《使用ツール・ファイル》

・ワークシート(Word 等), 発表テンプレート(パワーポイント等), 自己評価シート(Excel 等)  
\*各シートは生徒に作成させ, 必要に応じて提出させる

#### 《関連する教科》

・保健体育, 特別活動

“アクチュアル”内の  
関連コースと組み合わせた  
学習が可能。

#### 《この教材で関連するコース》

・本探究 調べ学習編: 探究の前に  
・本探究 調べ学習編: テーマの決め方  
・本探究 調べ学習編: 情報の集め方  
・本探究 課題研究編: 問いの立て方と仮説について  
・本探究 課題研究編: 研究計画を立てる

#### 1. 学習目標

1. 《知技》個人の有する課題意識は, 興味・関心に基づいて異なっていることが理解できる。
2. 《思判表》自分を取り巻く課題と社会を取り巻く環境のつながりについて ICT 機器を効果的に用いて, 情報を収集・整理することができる。
3. 《主体態》探究を通して自己を見つめ, 自分の個性や特徴に向き合う。

#### 2. 指導観

- ・「総合的な探究の時間」開始時期に行う。
- ・科目「保健」の3部導入での実施も可能。
- ・探究活動を進めるうえで, 「自分ごと」として事象をとらえることができるよう, 自分の興味・関心とSDGsとを結びつけて考えることができるように促す。
- ・「問い」を生み出すには, 目に見える物事を意識的に見ることが大切であることを理解できるようにする。

#### 3. 生徒観

- ・「問い」を見つける上で, 自分の興味関心の軸を意識できず, 漠然と物事を見る生徒が一定数いる。「問い」を生み出す根源となる自分の興味・関心を意識下に持つ重要性を理解させておきたい。
- ・探究のプロセスのうち, 課題の設定・情報の収集に焦点を持たせる。



授業展開案は編集可能な  
Wordファイルでもご提供。  
授業時間数を変えて取り組みたい場合も、  
Wordファイルを編集すれば  
すぐにカスタマイズ可能です。

3観点での評価が可能な  
ルーブリックを  
掲載しています。

#### 4. 評価

◎=最重要, ●=重要。重要は学校の進め方や目標に合わせて取捨選択する。

観点		重要度	十分満足できる	概ね満足できる	努力を要する
知識・技能	探究の意義 や価値の理解	●	自分の興味・関心を課題の設定・解決に結びつけて活動することができる。	興味・関心に応じて異なる課題が設定されることが理解できる。	興味・関心と課題との関係が十分に理解できていない。
	課題の設定	●	校内に潜む課題がSDGs等社会一般の課題に通じる点があることを理解して、「問い」を作ることができる。	課題を正しく認識して「問い」を作ることができる。	適切な「問い」を作れていない。
思考力・判断 力・表現力	情報の収集	●	抽象度の高い社会一般の課題の視点を意識して、校内の情報を集めることができる。	課題と言えるものを校内から見つけ出すことができる。	適切な情報を集められていない。
学びに向かう 力・人間性	自己理解・ 他者理解	◎	興味・関心の違いによって課題が異なることから、自己の個性や特徴を理解することができる。	自己の個性や特徴が何であるかを理解できる。	適切な自己理解に及んでいない。

#### 5. 授業の展開

※2時間で実施の場合、2限目の内容を家庭学習で補う。

【1限目】 ○指示・発問 □要点

過程	生徒の学習活動	指導内容	指導上の留意点
導入 5分	<全体活動> ・グループになって座る(4~5人一組)。 ・本時の学習活動を把握する。	・本時の狙いを伝える。 ○探究することにおいて「意識的」に見ることの大切さを理解させる。	・事前にグループ分けを実施し、時間確保を図る。
展開Ⅰ 10分	<グループ活動> ・ワークシートにある、SDGsの17の目標に関して興味あるものを丸で囲む。 ▶ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」ワークシート.docx	○ワークシートを開くよう指示する。 ○これから校内を探索し、課題を見つけることを伝える。	□ワークシートの活動前に校内マップを生徒へ配布しておく。 ・SDGsへの興味・関心がすぐに湧かなければ、中学校で学習してきた語句や、聞いたことのある語句を選ばせてもよい。
展開Ⅱ 30分	<グループ活動> ・校内を散策し、ワークシート・ICT機器を用いて、課題と思うものを記録する。 ▶ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」ワークシート.docx	○自分たちの興味・関心の観点から探し、記録することを伝える。	□写真に収めるなど、ICT機器の効果的な活用を促したい。

目安の授業時間数に  
合わせた展開例を  
掲載しています。

まとめ 5分	<全体活動> ・次時の活動について理解する。	○次時の活動に向けて, SDGs等に関する事前の情報収集を推奨する。	
-----------	---------------------------	------------------------------------	--

【2限目】 ○指示・発問 □要点

過程	生徒の学習活動	指導内容	指導上の留意点
導入 5分	<全体活動> ・グループになって座る(4~5人一組)。 ・本時の学習活動を把握する。	・本時の狙いを伝える。	
展開Ⅰ 30分	<グループ活動> ・自分たちが認識した課題について, 以下の活動を行う。 1. 学校の中にある課題(具体)が, SDGsや既習の社会課題(抽象度の上がった具体)とどのように関係するかについて, ICT機器などを用いて情報を収集し, 整理する。 ▶ミニ探究 1-4「学校の中の危険な場所を探す」ワークシート.docx  2. 課題解決に向けて, 自分たちが「今できること」について考える。 ▶ミニ探究 1-4「学校の中の危険な場所を探す」ワークシート.docx  3. スライドにまとめる。(発表を行わない場合はワークシートに記入する) ▶ミニ探究 1-4「学校の中の危険な場所を探す」発表テンプレート.pptx	○SDGsや社会一般の課題との関係を意識して整理するよう伝える。  ・スライドは4分以内の発表で使うものであることを伝えておく。	□できることには直接的なアプローチと間接的なアプローチがあることに注目させたい。  □スライドの作成に当たっては, 語句概念や17の目標またはターゲットとの関連を明確にするよう促す。
展開Ⅱ 10分	<グループ活動> ・校内を再度散策し, 共同作業シート・ICT機器を用いて, 課題と思うものを記録する。 ▶ミニ探究 1-4「学校の中の危険な場所を探す」ワークシート.docx	○SDGs・社会一般の課題との関連性を考えた上で, 改めて「課題」と認識すべきものがなにかを, 校内すべての事物から探し, 記録するよう伝える。	

どの場面でワークシートを使えばよいか, 授業展開例に明示しています。



ミニ探究・ミドル探究の授業展開案には、学習目標と評価、展開例を掲載。手間なく授業に取り掛かれます。また、授業展開案は編集可能なWordファイルでもご提供。授業時間数を変えて取り組みたい場合も、Wordファイルを編集すればすぐにカスタマイズ可能です。

まとめ 5分	<p>&lt;個人活動&gt;</p> <p>・学習の振り返りを行う。(ワークシート内の「まとめシート」にまとめる)</p> <p>▶ミニ探究 1-4「学校の中の危険な場所を探す」ワークシート.docx</p>	<p>○校内という同じフィールドでも、感じることや課題の捉え方が人によって異なることを確認する。</p> <p>○自分の興味を軸に景色をみると多くの気づきがあることを確認する。</p>	
-----------	---	--	--

【3限目】 ○指示・発問 □要点

過程	生徒の学習活動	指導内容	指導上の留意点
導入 5分	<p>&lt;全体活動&gt;</p> <p>・グループになって座る(4~5人一組)。</p> <p>・本時の学習活動を把握する。</p>	<p>・本時の狙いを伝える。</p> <p>○発表に関する手順を確認する。</p>	<p>前時のグループで行うこと。</p> <p>□発表の順番・場所も確認させ、スムーズな進行を促す。</p>
展開Ⅰ 5分	<p>&lt;グループ活動&gt;</p> <p>・発表のスライドを完成させる。</p>	<p>○前時の続きを行い、発表内容を4分以内にまとめさせる。</p>	<p>□語句概念や17の目標またはターゲットとの関連が明確か確認を促す。</p>
展開Ⅱ 25分	<p>&lt;全体活動&gt;</p> <p>各グループから発表する。</p>	<p>○発表ブースを4つに分ける。</p> <p>○発表時間は4分。</p> <p>○その後質疑応答の時間を3分用意する。</p> <p>○自分の発表時以外は見学者としてブースを巡回し、見学者はブースごとに1つは質問・意見を出すよう伝える。</p>	
展開Ⅲ 10分	<p>&lt;個人活動&gt;</p> <p>・発表で指摘された内容についてワークシート内の「まとめシート」にまとめる。</p> <p>▶ミニ探究 1-4「学校の中の危険な場所を探す」ワークシート.docx</p>		
まとめ 5分	<p>【本時の振り返りを行う】</p> <p>・できたこと</p> <p>・できなかったこと</p> <p>・今後どうしていきたいかなどをまとめる。</p>		<p>□振り返りは必ず行う。「できたこと・学んだこと」「できなかったこと」「今後どうしていきたいか」などの Good-Bad-Next の3観点でまとめる。</p> <p>・振り返りが提出されたときは一言でもいいので全員にコメントするようにしたい。</p>

※発表まで行うか否かについては、各学校の設定される時間数や全体の進度を考慮することが望ましい。



(3) (2)で見つけた課題が、SDGs や既に習った社会課題とどう関係するか、まとめてみよう。

(4) 課題解決に向けて、自分たちが「今できること」を考えてみよう。

(5) 改めて校内を散策して、課題がないか見直し、見つけたら記録していこう。(校内マップを貼る)

ワークシートに沿って活動すれば、  
まとめ・表現までスムーズに進められ、  
探究のプロセスを生徒自身が  
自然と身に付けることができます。



# 発表テンプレート

▶ミニ探究1-4

ミニ探究①

ミドル探究

調べ学習編

課題研究編

ツール・シラバス

## 学校の中の 危険な場所を探す

	年	組
氏名	[	]

危険な場所①＝

理由：

関連するSDGs／社会課題：

今自分たちができる解決策：



発表資料のテンプレートを  
用意しています。  
テンプレートを元にPowerPoint形式で  
スライドを作成する機会を増やせば、  
生徒の情報活用能力を  
高めることができます。

# 自己評価シート

## ▶ミニ探究1-4

「学校の中の危険な場所を探す」自己評価シート

年 組

★自分の活動を振り返って、自己評価を行ってみよう。

氏名

### ■評価項目

観点	重要度	十分満足できる	概ね満足できる	努力を要する
知識・技能	探究の意義や価値の理解	● 自分の興味・関心を課題の設定・解決に結びつけて活動することができる。	興味・関心に応じて異なる課題が設定されることが理解できる。	興味・関心と課題との関係が十分に理解できていない。
思考力・判断力・表現力	課題の設定	● 校内に潜む課題がSDGs等社会一般の課題に通じる点があることを理解して、「問い」を作ることができる。	課題を正しく認識して「問い」を作ることができる。	適切な「問い」を作れていない。
	情報の収集	● 抽象度の高い社会一般の課題の視点を意識して、校内の情報を集めることができる。	課題と言えるものを校内から見つけ出すことができる。	適切な情報を集められていない。
学びに向かう力・人間性	自己理解・他者理解	◎ 興味・関心の違いによって課題が異なることから、自己の個性や特徴を理解することができる。	自己の個性や特徴が何であるかを理解できる。	適切な自己理解に及んでいない。

### ■自己評価：自分の活動を評価してチェックを入れよう。

知識・技能	探究の意義や価値の理解	●	<input type="checkbox"/> 十分満足できる	<input type="checkbox"/> 概ね満足できる	<input type="checkbox"/> 努力を要する
思考力・判断力・表現力	課題の設定	●	<input type="checkbox"/> 十分満足できる	<input type="checkbox"/> 概ね満足できる	<input type="checkbox"/> 努力を要する
	情報の収集	●	<input type="checkbox"/> 十分満足できる	<input type="checkbox"/> 概ね満足できる	<input type="checkbox"/> 努力を要する
学びに向かう力・人間性	自己理解・他者理解	◎	<input type="checkbox"/> 十分満足できる	<input type="checkbox"/> 概ね満足できる	<input type="checkbox"/> 努力を要する

先生側と同じルーブリックで生徒が自己評価を行えるシートを用意しています。

# 単元画面（生徒画面）

## ▶ミニ探究3-1

<< 戻る

ミニ探究3-1「ペーパータワー」

選択中クラス  
1年1組

学びの狙い

- 1 ペーパータワーを通した試行錯誤を通して、探究の良さに気づくことができる。
- 2 作業工程をドキュメンテーション化していく方法を習得している。
- 3 試行錯誤のプロセスをドキュメンテーション化して提示することができる。
- 4 グループでの試行錯誤を通して、自分自身が集団活動にどのように参画できるのか、省察することができる。

関連する学び

数学 理科 情報

学びの流れ

ペーパータワー

課題導入 >>>

- 1 グループを作ろう。  
スライドの課題導入とルールを読んで、活動内容を把握しよう。
- 2 まずは一人ずつ、個人でタワーを作ってみよう。
- 3 グループ内でどんなタワーを作ったか、どうすれば高いタワーを作れるか、〈共同作業シート①タワー作りの戦略1〉を使って共有しよう。  
[ミニ探究3-1「ペーパータワー」共同作業シート.xlsx]

Advice

司会者・書記・発表者をそれぞれ交代してアイデアを発表していこう。

- 4 共同作業シート①を使って、アイデアをグループ分けし、それをまとめる言葉を考えてみよう。  
グループ分けで整理したアイデアから、高いタワーを作る戦略（仮説）を考えよう。  
[ミニ探究3-1「ペーパータワー」共同作業シート.xlsx]
- 5 戦略をもとに、グループで高いタワー作りに挑戦しよう。

生徒画面も先生画面と同様、活動のポイントを把握できる動画から始まり、活動の流れを細かいステップで表示しています。

- 6 他のグループがどんな工夫を行っているか、話を聞きに行こう。



Advice

全員で話を聞きに行くのではなく、一人ひとりが順番にグループを回るようにしましょう。

- 7 共同作業シート②タワー作りの戦略2>を使って、他のグループの工夫を情報共有し、新たな戦略を考えよう。  
[ミニ探究3-1「ペーパータワー」共同作業シート.xlsx]

- 8 戦略をもとに、グループで高いタワー作りに挑戦しよう。

- 9 グループごとに、自分たちの取り組みをポスターにまとめよう。

Advice

戦略の立案からペーパータワー作りの評価まで、一連のプロセスが分かるようにポスターを作ろう。



Advice

ポスターの作り方は、発表ポスター例を参考にしよう。  
[ミニ探究3-1「ペーパータワー」発表ポスター例.pdf]

- 10 ポスター作りに必要な情報を整理しよう。また、グループ内で役割を分担してがんばろう。

- 11 ポスターが出来上がったら、印刷して貼り出せるようにして、発表のリハーサルをしよう。

- 12 ポスター発表を実施しよう。

- 13 学びを振り返ろう。

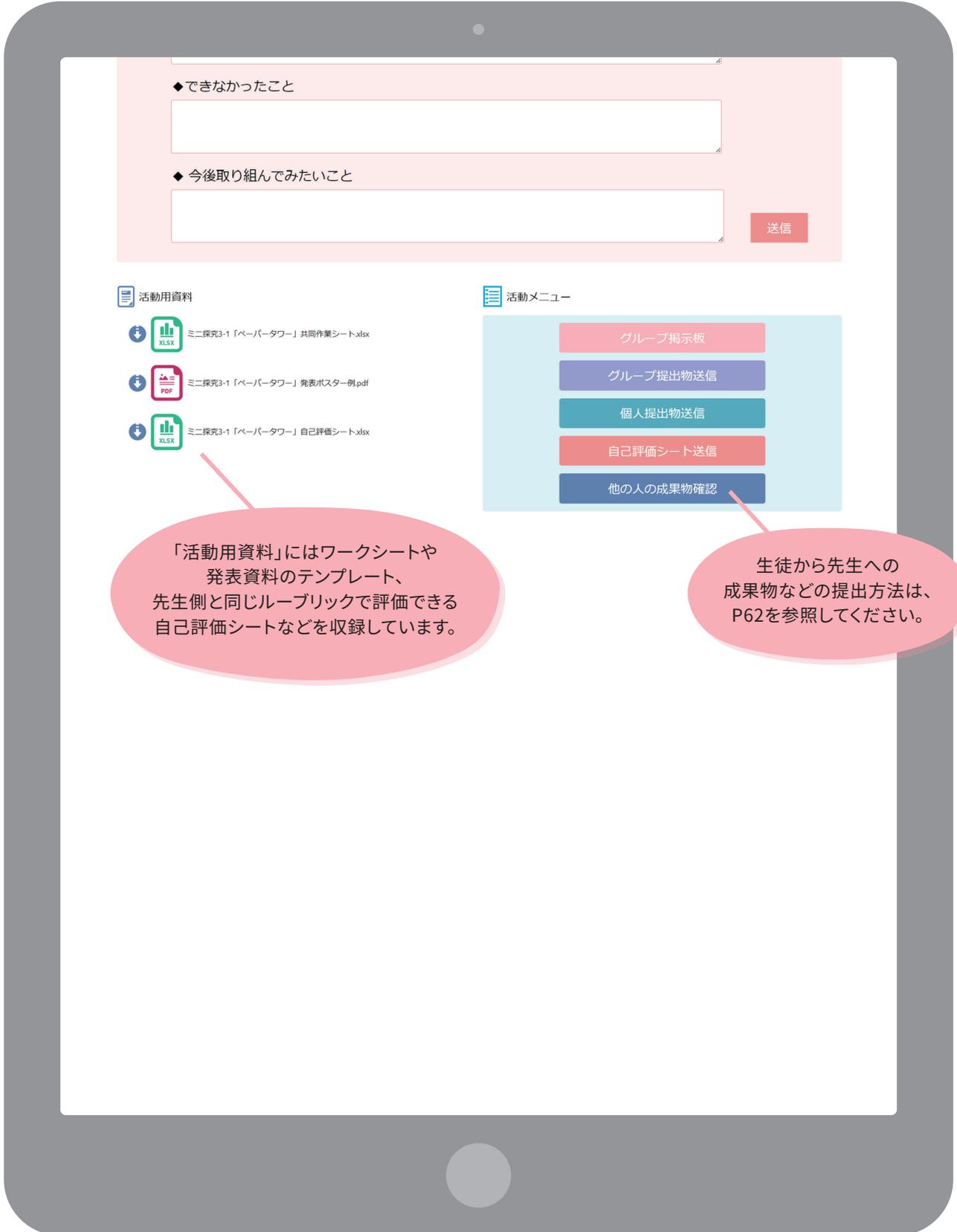
◆できたこと

ミニ探究・ミドル探究の生徒画面には、  
振り返り入力欄を用意しています。  
入力したコメントは、先生側・生徒側双方で  
履歴として保存され、探究活動の歩みを後から  
確認するときすぐに呼び出すことができます。



ミニ探究・ミドル探究の単元画面は、生徒主体で活動に取り組めるよう、活動の流れを詳しく表示し、情報収集やアイデアの整理が必要な場面で使えるワークシートを用意。

WordやExcelの形式でワークシートを作成することで、情報活用能力を高めることができます。



「活動用資料」にはワークシートや発表資料のテンプレート、先生側と同じループリックで評価できる自己評価シートなどを収録しています。

生徒から先生への成果物などの提出方法は、P62を参照してください。

# 授業展開案

## ▶ミニ探究3-1

各単元の  
目安となる授業時間数を  
明示。

### ミニ探究 3-1「ペーパータワー」授業展開案

#### 《想定時間(コマ)数》

・3~4 時間

#### 《使用ツール・ファイル》

・共同作業シート(Excel 等), 発表ポスター例(PDF), 自己評価シート(Excel 等)  
\*各シートは生徒に作成させ, 必要に応じて提出させる

#### 《関連する教科》

・数学, 理科, 情報

#### 《この教材で関連するコース》

・調べ学習編: 探究の前に  
・調べ学習編: テーマの決め方  
・調べ学習編: 情報のまとめ方  
・調べ学習編: 発表会&振り返りの方法

“アクチュアル”内の  
関連コースと組み合わせた  
学習が可能。

#### 1. 学習目標

1. 《**知技**》ペーパータワーを通した**試行錯誤**を通して, 探究の意義や価値に気づくことができる。
2. 《**知技**》作業工程をドキュメンテーション化していく方法を習得している。
3. 《**思判表**》**試行錯誤**のプロセスをドキュメンテーション化して提示することができる。
4. 《**主体態**》グループでの**試行錯誤**を通じて, 自分自身が集団活動にどのように参画できるのか, 省察することができる。

#### 2. 指導観

・ペーパータワーの作成自体はシンプルだが奥深いもので, 建築工学的な含意を持つ。ただ, ここでは**探究を通じて必要になる試行錯誤の感覚**, さらに**グループでの分担やアイデアのシェアなどを体験**するために利用する。  
・紙で作られたタワーの高さを競うゲーム的要素が強いが, そのプロセスを丁寧に意識させることで, **探究の試行錯誤**, そして, **グループでの探究の入り口**としたい。

#### 3. 生徒観

・教科の授業では教科書の内容の理解や暗記が中心になることがあるが, **探究ではむしろ, 自ら新しい発見や気づきを得ていく試行錯誤が重要**になる。  
・最初, 生徒たちは戸惑い, まともに動こうとしないかもしれない。実際の活動が円滑に行えるように, 教員はファシリテーションを意識して, 生徒たちの緊張をときほぐし, 最初から正解を求めず**に失敗を許して試行錯誤**することを推奨するようにしたい。



授業展開案は編集可能な  
Wordファイルでもご提供。  
授業時間数を変えて取り組みたい場合も,  
Wordファイルを編集すれば  
すぐにカスタマイズ可能です。

3観点での評価が可能な  
ルーブリックを  
掲載しています。

#### 4. 評価

◎=最重要, ●=重要。重要は学校の進め方や目標に合わせて取捨選択する。

観点		重要度	十分満足できる	概ね満足できる	努力を要する
知識・技能	技能	●	作業工程を体系立てて文章化している。	作業工程を記録している。	左の評価に該当しない。
	探究の意義や価値の理解	◎	試行錯誤を通して、新しい発見や気づきを得、その発見や気づきによって自己変容を遂げている。	新しい発見や気づきを受け入れている。	左の評価に該当しない。
思考力・判断力・表現力	まとめ・表現	●	試行錯誤のプロセスを、順序や因果関係を明確にしながら、発表資料としてまとめている。	試行錯誤のプロセスを発表資料にまとめている。	左の評価に該当しない。
学びに向かう力・人間性	主体性・協働性	●	自他の良さを生かしながら協力して問題の解決に取り組む、協働の良さ気づいている。	他のメンバーと協働はしている。	左の評価に該当しない。

#### 5. 授業の展開

【1限目】○指示・発問 □要点

過程	生徒の学習活動	指導内容	指導上の留意点
導入 5分	<グループ活動> ・3人1組のグループを作る。 ・タワー作りのルールを理解する。	○以下のルールを説明する。 ①A4コピー用紙3枚を使って最も高いタワーを作る。 ②のりやテープ、ハサミやカッターは使用不可。 ③タワーの基礎には下敷きを利用する。	□本活動時間中のインターネットの使用は想定していない。
展開Ⅰ 15分	<個人活動> ・まずは個人でタワー作りを行い、試行錯誤する。	○机間指導を行い、ルールを理解していない生徒に指導をする。	
展開Ⅱ 10分	<グループ活動> ・グループ内でノウハウを共有する。 ・司会者・書記・発表者を順番に交代していきながら、それぞれどのようなタワーを作ったのか、どのようにすればうまくいくのか、ノウハウを発表する。その際、書記は共同作業シートに発表内容を書き留める。	○共同作業シートを開くよう指示する。	

目安の授業時間数に  
合わせた展開例を  
掲載しています。

展開Ⅲ 5分	<グループ活動> ・共同作業シートにまとめた内容から、ノウハウを整理する。 ・類似した内容をグルーピングするなどして、最も高いタワーを作るにはどのような戦略が考えられるのか、いくつかの仮説を考え、共同作業シートに記入する。		
展開Ⅳ 10分	<グループ活動> ・整理されたノウハウから考え出した戦略をもとに、グループでタワー作りを開始する。 ・作業内容を写真に収める。	○必要に応じてメジャーを貸し出すことを伝え、最長記録を黒板に書き出していく。	□クラス内で競い合いの雰囲気を作り、成功しているタワーの様子をお互いに見ることができるようにする。
まとめ 5分	<グループ活動> ・最長記録を確認する。	○クラスで最長記録のタワーを作ったグループを確認し、そのグループがどのような工夫をしたのか、発表させる。	

【2限目】 ○指示・発問 □要点

過程	生徒の学習活動	指導内容	指導上の留意点
導入 5分	・前回の振り返りを行う。		
展開Ⅰ 15分	<個人活動> ・ワールドカフェの要領で座席を移動し、それぞれのグループがどのような工夫を行っているのか、情報交換を行う。(5分×3回)		
展開Ⅱ 5分	<グループ活動> ・元のグループに戻って他のグループの情報を交換し、新たな戦略を立て直す。	○共同作業シートに情報共有や戦略の内容を書き留めるように指示する。	
展開Ⅲ 20分	<グループ活動> ・新たに練り上げた戦略をもとに、グループでタワー作りを開始する。 ・作業内容を写真に収める。	○必要に応じてメジャーを貸し出すことを伝え、最長記録を黒板に書き出していく。	□クラス内で競い合いの雰囲気を作り、成功しているタワーの様子をお互いに見ることができるようにする。
まとめ 5分	<グループ活動> ・最長記録を確認する。	○クラスで最長記録のタワーを作ったグループを確認し、そのグループがどのような工夫をしたのか、発表させる。	

\*ワールドカフェの要領については以下を参照。

・ワールド・カフェ・ネット,「ワールドカフェについて」,<http://world-cafe.net/about/>

【3限目】 ○指示・発問 □要点

過程	生徒の学習活動	指導内容	指導上の留意点
導入 5分	・前回の振り返りを行う。		
展開Ⅰ 10分	<グループ活動> ・ポスター作りの進め方を理解する。	○これまで行ってきた、タワー作りの工夫や戦略の立案、実施と結果の評価という一連のプロセスをポスターにまとめることを説明する。 ○発表ポスター例を参考にし、パワーポイント等で作成するよう指示する。	
展開Ⅱ 15分	<グループ活動> ・ポスターに必要な情報を整理する。 ・ポスター作りの役割分担を行う。	○これまでの作業で書き留めたメモ等を整理するだけでなく、書き漏らしていた内容があれば加えるよう指示する。 ○戦略と工夫、実施、結果の評価など、ステップごとに役割を分けられることを伝える。	
展開Ⅲ 20分	<グループ活動> ・ポスター作りを行う。	○時間内に終わらなかった場合は宿題として完成させるよう伝える。	

【4限目】 ○指示・発問 □要点

過程	生徒の学習活動	指導内容	指導上の留意点
導入 5分	・前回の振り返りを行う。		
展開Ⅰ 15分	<グループ活動> ・役割ごとに作成したポスターを集約し、一つにまとめる。 ・不足している内容があれば調整する。 ・完成したポスターは出力して掲示できるようにする。 ・ポスター発表のリハーサルを行う。	○準備が整ったところで、ポスター発表の順番を決める(前半後半)。	
展開Ⅱ 30分	<全体活動> ・2部制のポスター発表を行う。		□前後半2部制のターンで発表を行う(1ターン10分)。1回の発表は質疑を含め5分程度として、1ターン以内で2回は行いたい。

(以下略)



# 発表ポスター例

## ▶ミニ探究3-1

ミニ探究 3-1 「ペーパータワー」ポスター例（用紙サイズ A3）

★図やグラフを入れて、伝わりやすいポスターを作ろう。

タイトル	
1. どんな戦略を立案したか ..... ..... .....	
2. エ夫したポイントはどこか ..... ..... .....	図・写真・ 表・グラフ
3. 実施の流れ ..... ..... ..... .....	図・写真・ 表・グラフ
	図・写真・ 表・グラフ
4. 結果とその評価 ..... ..... .....	図・写真・ 表・グラフ



ミニ探究・ミドル探究には、  
発表資料の作り方が分かる  
テンプレートを収録。  
見やすく伝わりやすい発表資料の  
作り方を身に付けることができます。

# 自己評価シート

## ▶ミニ探究3-1

「ペーパータワー」自己評価シート

年 組

★自分の活動を振り返って、自己評価を行ってみよう。

氏名

### ■評価項目

観点	重要度	十分満足できる	概ね満足できる	努力を要する
知識・技能	技能	● 作業工程を体系立てて文章化している。	作業工程を記録している。	左の評価に該当しない。
	探究の意義や価値の理解	◎ 試行錯誤を通して、新しい発見や気づきを得、その発見や気づきによって自己変容を遂げている。	新しい発見や気づきを受け入れている。	左の評価に該当しない。
思考力・判断力・表現力	まとめ・表現	● 試行錯誤のプロセスを、順序や因果関係を明確にしながから、発表資料としてまとめている。	試行錯誤のプロセスを発表資料にまとめている。	左の評価に該当しない。
学びに向かう力・人間性	主体性・協働性	● 自他の良さを生かしながら協力して問題の解決に取り組む、協働の良さに気づいている。	他のメンバーと協働はしている。	左の評価に該当しない。

■自己評価：自分の活動を評価してチェックを入れよう。

知識・技能	技能	●	<input type="checkbox"/> 十分満足できる	<input type="checkbox"/> 概ね満足できる	<input type="checkbox"/> 努力を要する
	探究の意義や価値の理解	◎	<input type="checkbox"/> 十分満足できる	<input type="checkbox"/> 概ね満足できる	<input type="checkbox"/> 努力を要する
思考力・判断力・表現力	まとめ・表現	●	<input type="checkbox"/> 十分満足できる	<input type="checkbox"/> 概ね満足できる	<input type="checkbox"/> 努力を要する
学びに向かう力・人間性	主体性・協働性	●	<input type="checkbox"/> 十分満足できる	<input type="checkbox"/> 概ね満足できる	<input type="checkbox"/> 努力を要する

先生側と同じルブリックで生徒が自己評価を行えるシートを用意しています。

# ミドル探究 単元一覧 (2024.09.30現在)



マークを付けた単元は、この一部見本で活動内容や付属資料を全てご覧いただけます。

- 4-1 「地域のために何ができるか?」
- 4-2 「古写真」から始まる歴史研究入門
- 4-3 「スポーツパフォーマンスを分析しよう」
- 4-4 「SDGsを自分ごと化する」
- 4-5 「被災地を支援する」
- 4-6 「首里城から考える「未来に遺す」ことの意味～My heritageを考えよう～」  
(STEAMライブラリー) ケイオーパートナーズチーム
- 4-7 「京都探究プログラム～持続可能な街づくりを学ぶ～」株式会社日本旅行
- 4-8 「ネットゼロを目指して～カンタス航空探究プログラム～」カンタス航空

Pick Up!

P32

ミニ探究

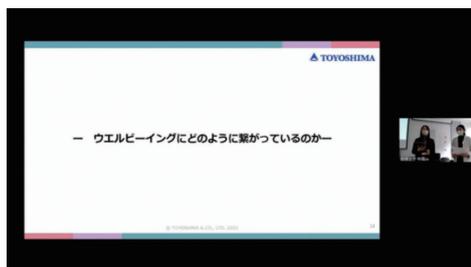
ミドル探究

調べ学習編

課題研究編

ツール・シラバス

## 企業・社会との連携



ミニ探究2-10  
「吸水ショーツをきっかけに、  
ウエルビーイングな社会について考える」



ミドル探究4-8  
「ネットゼロを目指して  
～カンタス航空探究プログラム～」

「ミニ探究」「ミドル探究」には、企業が作成したプレゼン資料や企業の講義動画から始まる、社会課題の解決に取り組む単元も収録しています。こうした企業との連携で完成した単元では、SDGsだけでなく、注目が集まる「カーボンニュートラル」や「ウエルビーイング」なども取り扱っています。

# 単元画面（先生画面）

## ▶ミドル探究4-2

### < 戻る

## ミドル探究4-2 「古写真」から始まる歴史研究入門

選択中クラス  
1年1組

#### 学びの狙い

- 1 「観察」「推測」のために適切な情報を収集でき、それに基づき「論証」を行い、一貫した論理を持つポスターにまとめることができる。
- 2 具体的な経験をもとに歴史研究の意義や価値を説明できている。
- 3 グループでの活動に自ら主体的に参画し、グループに貢献しようとする態度を持つ。

#### 関連する学び



教科との関連を明示。  
教科での探究活動にも  
使えます。

#### 学びの流れ



冒頭に活動の  
ポイントを把握できる  
動画を掲載。

- 1 グループを作ろう。  
古写真と現在の地図を受け取ったら、どのように調査を進めるか決めよう。

#### Advice

古写真1枚ごとに担当者を決めるのか、1枚の古写真を複数人で担当するのか、進め方を決めておこう。



- 2 歴史研究の意義や価値について、学んだことを<フィールドノート>にまとめてみよう。  
[ミドル探究4-2「古写真」から始まる歴史研究入門 ワークシート.docx]
- 自己評価と他者評価を、ワークシートの<貢献度アンケートシート>に記入しよう。  
[ミドル探究4-2ミドル探究4-2「古写真」から始まる歴史研究入門 ワークシート.docx]

生徒だけでも  
取り組みやすいよう、  
細かいステップで  
活動の流れを表示。

- 3 グループを作ろう。  
古写真と現在の地図を受け取ったら、どのように調査を進めるか決めよう。
- 4 グループ内で気づいた内容を共有しよう。さらに他のグループにも古写真を見てもらって、気づくことがないか聞いてみよう。



#### A dvice

他の人の気づきも、〈フィールドノート〉に書き留めておこう。  
[ミドル探究4-2「古写真」から始まる歴史研究入門 ワークシート.docx]

- 5 グループ内で気づいた内容を共有しよう。さらに他のグループにも古写真を見てもらって、気づくことがないか聞いてみよう。

#### N otice

資料の出典は必ず記録しておくこと。



- 6 フィールドワークに出かけよう。



#### N otice

地域についての説明は〈フィールドノート〉にメモしておくこと。

- 7 古写真の撮影場所が推測できたら、同じ位置から写真を撮ろう。

#### A dvice

場所が分からない場合は、観察や聞き取り調査を行って調べてみよう。





ミドル探究も、画面上の活動の流れを見れば生徒自ら取り組んでいける構成としています。  
授業展開案とワークシートを用意しており、先生方の負担をできるだけ減らす一方で、  
5～10コマかけて本格的な探究活動に取り組むことができます。

- 8 ポスターテンプレートをもとに、ポスターを作成しよう。  
[ミドル探究4-2「古写真」から始まる歴史研究入門]スライド型ポスターテンプレート\_個人作成用.pptx]  
[ミドル探究4-2「古写真」から始まる歴史研究入門]スライド型ポスターテンプレート\_グループタイトル.pptx]
- 9 ポスターを掲示して、発表しよう。

Advice

事前に発表役と聞き手役を決めておこう。



Advice

発表に対する反応を<フィールドノート>に書き留めておこう。  
[ミドル探究4-2「古写真」から始まる歴史研究入門]ワークシート.docx]

- 10 ポスターを掲示して、発表しよう。

活動用資料

- ミドル探究4-2「古写真」から始まる歴史研究入門]ワークシート.docx
- ミドル探究4-2「古写真」から始まる歴史研究入門]スライド型ポスターテンプレート\_グループタイトル.pptx
- ミドル探究4-2「古写真」から始まる歴史研究入門]スライド型ポスターテンプレート\_個人作成用.pptx

Google Classroom用の資料を入手

活動メニュー

- 配布資料設定
- グループ作成
- 作成グループ表示
- 提出物・評価入力
- 振り返り・評価確認

生徒の提出物の  
確認方法などは  
P63を参照してください。

# 授業展開案

## ▶ミドル探究4-2

各単元の  
目安となる授業時間数を  
明示。

### ミドル探究 4-2「古写真」から始まる歴史研究入門」授業展開案

#### 《想定時間(コマ)数》

・10~12時間

#### 《事前準備》

- ・地域の古写真(幕末から明治期)
  - \*フィールドワークを実施できる地域の古写真に限定する。
  - \*各グループ内で一人一枚となるよう、最低5枚程度は用意しておく。

#### 《外部連携》(可能であれば)

- ・地域の博物館・資料館等の学芸員,あるいは大学の研究者
  - \*フィールドワーク前のエクスカーション時に、地域の概略や特徴を解説してもらう。

#### 《使用ツール・ファイル》

- ・ワークシート(Word等),自己評価シート(Excel等)
  - \*各シートは生徒に作成させ、必要に応じて提出させる

#### 《関連する教科》

- ・地歴公民,国語

アクチュアル内の  
関連コースと組み合わせた  
学習が可能。

#### 《この教材で関連するコース》

- ・本探究 調べ学習編:情報の集め方
- ・本探究 調べ学習編:情報の整理方法
- ・本探究 調べ学習編:情報のまとめ方
- ・本探究 調べ学習編:発表会と振り返りの方法
- ・本探究 課題研究編:研究計画を立てる
- ・本探究 課題研究編:分析方法
- ・本探究 課題研究編:探究成果のまとめ方
- ・本探究 課題研究編:成果報告会の運営・振り返り会の運営

#### 1. 学習目標/評価規準

- ・**目標①**:「観察」「推測」のために適切な情報を収集でき、それに基づき「論証」を行い、一貫した論理を持つポスターにまとめることができる。(思考力・判断力・表現力:情報の収集/整理・分析/まとめ・表現)
- ・**目標②**:具体的な経験をもとに歴史研究の意義や価値を説明できる。(知識・技能:探究の意義や価値の理解)
- ・**目標③**:グループでの活動に自ら主体的に参画し、グループに貢献しようとする態度を持つ。(学びに向かう力・人間性:主体性・協働性)

#### (参考)観点ごとの小分類

- 知識・技能(知識/技能/探究の意義や価値の理解)
- 思考力・判断力・表現力(課題の設定/情報の収集/整理・分析)
- 学びに向かう力・人間性(自己理解・他者理解/主体性・協働性)



授業展開案は編集可能な  
Wordファイルでもご提供。  
授業時間数を変えて取り組みたい場合も、  
Wordファイルを編集すれば  
すぐにカスタマイズ可能です。

**\*一文表記の場合**

「古写真」を通した探究的な学習を通して【学習活動】「観察」「推測」のために適切な情報を収集でき、それに基づき「論証」を行い、一貫した論理を持つポスターにまとめることができ【思考力・判断力・表現力】、具体的な経験をもとに歴史研究の意義や価値を説明でき【知識・技能】、グループでの活動に自ら主体的に参画し、グループに貢献しようとする態度を持つ【学びに向かう力・人間性】。

**2. 評価方法と評価規準例**

**・目標①**

- 評価対象物:作成したポスター
- 評価方法:ルーブリックでの評価

	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する
情報の収集	「観察」「推測」のために適切な情報を収集できている。	情報を収集できているが「観察」「推測」に必要なものが十分ではない。	十分な情報を収集できず「観察」「推測」が行えていない。
整理・分析	具体的な経験をもとに、歴史研究の意義や価値を説明できている。	具体性が乏しいが、歴史研究の意義や価値を説明できている。	歴史研究の意義や価値を説明できていない。
まとめ・表現	一貫した論理を持つポスターにまとめることができている。	成果をポスターにまとめられているが、論理的矛盾等の不備が一部で指摘できる。	調べた内容をポスターにまとめているが、書かれた内容から論理がほとんど読み取れない。

**・目標②**

- 評価対象物:取り組み後の感想(ワークシート内フィールドノート)
- 評価方法:ルーブリックでの評価
  - ・A 十分満足できる:具体的な経験をもとに、歴史研究の意義や価値を説明できている。
  - ・B 概ね満足できる:具体性が乏しいが、歴史研究の意義や価値を説明できている。
  - ・C 努力を要する :歴史研究の意義や価値を説明できていない。

**・目標③**

- 評価対象物:取り組み後のアンケート(ワークシート内貢献度アンケートシート)
- 評価方法:自己評価・他者評価を総合的に判断
  - ・「あなたのグループ活動への貢献度を自己評価してください」
  - ・「他のメンバーのグループ活動への貢献度を評価してください」

ミドル探究では、評価対象物と評価方法を明示しています。

**3. 生徒観・指導観**

- ・「古写真」という比較的入手しやすい教材を通して、その「古写真」の撮影場所を様々な資料を用いて調査することで、10時間程度で歴史研究の大まかなイメージを理解できる。
- ・短時間で観察学習・調べ学習・フィールドワーク・探究ポスター作成の工程を体験することで、探究的な学習の全体像が理解できる。
- ・用いる「古写真」や当該地域の指定範囲などを工夫することで、中学生から高校生まで幅広い学習者層に地域の歴史への関心を促すようにしたい。
- ・教員は「古写真」がどの場所で撮影されたものか、正解を事前に知っている必要はなく、生徒には誰も正解を知らないこと、そのため、自分たちの推測をきちんと論証して他の人を説得しないといけないことを確認する。

10時間前後かかる想定  
のミドル探究については、  
「学習活動」「指導のねらいとポイント」  
「評価について」の3つに整理して  
授業展開例を示しています。

#### 4. 指導と評価の計画

##### (1) プロセスI 古写真の調べ学習

- ・古写真を観察しよう。
- ・それがどこで撮影されたものか、推測してみよう。

小単元名(時数)	学習活動/指導のねらいとポイント/評価について
1 課題について理解しよう	<p><b>【学習活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスを4~5人のチームに分ける。</li> <li>・チームごとに教員が用意した古写真(幕末から昭和期)を複数枚配布する。</li> <li>・古写真はフィールドワークで行く地域のものに限定し、チーム同士同じものが混ざっていてもよい。</li> <li>・教員は地域の指定範囲を説明し、その地域について解説する。</li> <li>・この際、当該地域の現在の地図を配布する。</li> <li>・チーム内でどのように調査するのか、古写真1枚ごとに担当を決めるのか、複数人で担当するのか決める。</li> <li>・フィールドノートの使い方を指導する。</li> </ul> <p>▶ミドル探究 4-2「古写真」から始まる歴史研究入門」ワークシート.docx</p> <p><b>【指導のねらいとポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの活動が主となるので、チーム分けについて人間関係や学力差などを考慮して行う必要がある。</li> </ul> <p><b>【評価について(指導に生かす評価)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム内での役割分担及び課題についての理解度合いをチーム内で話し合い、個々の生徒がどの程度、古写真等の資料を読み込んでいるかで確認する。</li> </ul>
2~3 古写真を観察して、図書館やインターネットで調べよう	<p><b>【学習活動】</b></p> <p>&lt;観察学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古写真の観察を行う。</li> <li>・観察を行い、気づいたことをフィールドノートに書き出す。</li> <li>・書き出したものをチーム内で共有し、担当が違うメンバーにも古写真を見てもらい、新しい発見がないか、確認する。</li> </ul> <p>&lt;調べ学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域について、学校内の図書館や地域図書館を利用して関連資料を集める。</li> <li>・特に重要なのは当該地域の古地図なので、チームごとに連携してコピーを行うなど、特定のチームが重要資料を独占しないように事前に指導を行う。</li> </ul> <p>▶ミドル探究 4-2「古写真」から始まる歴史研究入門」ワークシート.docx</p> <p><b>【指導のねらいとポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査した内容の整理方法を確認すること。例えば、書籍をコピーする際には出典が不明になることが多いので、用紙の裏側などに出典を明記するように指導する。</li> <li>・図書館・インターネット、それぞれの利用の際には図書館司書によるガイダンスを行うとよい。</li> <li>・生徒自身が事前の調べ学習で課題として出された古写真のほとんどの場所について、目星がつくようにしておく。</li> </ul>

各小単元で行う  
評価について、  
「指導に生かす評価」と  
「記録に残す評価」の  
どちらを行えばよいか、  
明示しています。

	<p>・実際は放課後や休日を使って調査が継続されることになるので、授業中に進捗状況を確認し、授業3回目が終了する時点である程度の目星がつくように指導する。</p> <p><b>【評価について(指導に生かす評価)】</b></p> <p>・観察学習では、生徒がどの程度古写真を見ているのか、時間とともにどのような発見がなされ、それが言語化されているのかを確認する。</p> <p>・調べ学習においては、量と、「推測」に結びつくものであるかという質、両面から進捗状況を把握する。</p>
4 フィールドワークの準備をしよう	<p><b>【学習活動】</b></p> <p>・フィールドワークに行くための準備を行う。</p> <p>・当日の集合場所等のガイダンスや、チーム内でどのような手順で調査に当たるのか、確認させる。</p> <p><b>【指導のねらいとポイント】</b></p> <p>・フィールドワークにおける段取りや、どの場所かという仮説をチーム内で確認し合う。特にリーダーは十分に状況を把握しているようにしたい。</p> <p><b>【評価について(指導に生かす評価)】</b></p> <p>・段取りを明確化させ、進捗状況を確認する。</p> <p>・リーダーにチーム内の状況を報告させ、個々の役割や目論見を確認する。他のメンバーを前に行い、チーム内で認識が共有されているか確認する。</p>

## (2) プロセス2 フィールドワーク

- ・チーム内で段取りを決めて、手際良く現場の情報を収集していこう。
- ・現場の観察、聞き取り調査、インタビューを駆使して、図書館やインターネットでは収集できなかった情報を集めよう。

小单元名(時数)	学習活動/指導のねらいとポイント/評価について
5 フィールド・エクスカージョン	<p><b>【学習活動】</b></p> <p>・当該地域に到着したら、教員がその地域の概略や特徴的な建物、石碑などを説明しながら歩く。</p> <p><a href="#">▶ミドル探究 4-2「古写真」から始まる歴史研究入門」ワークシート.docx</a></p> <p><b>【指導のねらいとポイント】</b></p> <p>・基本的な土地勘を生徒に習得させる狙いがあり、そのままフィールドワークを行い、道に迷うことのないよう手元の現在の地図との照合関係を気にするようにさせる。</p> <p>・このとき、その地域に詳しい博物館や資料館の学芸員、研究者に解説をお願いしてもよい。</p> <p><b>【評価について(指導に生かす評価)】</b></p> <p>・説明内容をメモしているか、生徒同士で共有しているか、生徒の様子を観察する中で確認する。</p>

6～7 フィールドワーク	<p><b>【学習活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームごとにデジタルカメラを渡し、古写真の撮影場所だと推測できる場所で当時と同じ角度で現在地の写真を撮るように指示する。(生徒自身のPCやスマートフォンで撮影させてもよい)</li> <li>・その際、場所がまだ不明なものについては、現場の観察や聞き取り調査、インタビューを行って、新しい情報を収集し、場所の推測も同時に行うようにする。</li> </ul> <p>▶ミドル探究 4-2「古写真」から始まる歴史研究入門」ワークシート.docx</p> <p><b>【指導のねらいとポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームごとに教員やTAが同行してもいいし、定期的に連絡させることで安否の確認を行ってもよい。</li> <li>・定時に集合場所に集まって解散、チームによってはその後も調査を行う、というようなフレキシブルな運用を行うとよい。</li> </ul> <p><b>【評価について(指導に生かす評価)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習状況が把握できるように、同行者からの連絡を受け取るようにしたり、定期的にリーダーからの報告を受け取ったりする。チーム内でフリーライダーが出ていないか、活動内容に困惑していないかを確認する。</li> </ul>
--------------	---

### (3) プロセス3 探究ポスターの作成とミニ発表会

・フィールドワークの結果をポスターにまとめて発表しよう。

小単元名(時数)	学習活動/指導のねらいとポイント/評価について
8 ポスターのまとめ方を理解する	<p><b>【学習活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例となるポスターを提示し、どのようにまとめるのか説明する。</li> <li>・レイアウトを決めて、必要な写真のデータを整理する。</li> <li>・文面案を作成する。</li> </ul> <p><b>【指導のねらいとポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導実績が蓄積されると、例となるポスターが手元に集まってくる。学校内で共有して生徒が模倣しやすいようにする。</li> <li>・ポスターの下書きはレイアウトから考えるとやりやすい。</li> <li>・文面案については最初書きすぎくらいで、そこから推敲すると良い。</li> <li>・ポスター作成については、以下を参照。</li> </ul> <p>▶ミドル探究 4-2「古写真」から始まる歴史研究入門」スライド型ポスターテンプレート_個人作成用.pptx</p> <p>▶ミドル探究 4-2「古写真」から始まる歴史研究入門」スライド型ポスターテンプレート_グループタイトル.pptx</p> <p><b>【評価について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本プロセスでは記録に残す評価を行う。</li> </ul>
9～10 ポスターにまとめる	<p><b>【学習活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レイアウトに沿って写真を貼り付け、文字を書いていく。</li> </ul>



ミニ探究と同様、授業展開案は編集可能なWordファイルでも提供しています。  
学校の事情に合わせて授業時間数を変えて取り組みたい場合なども、  
Wordファイルを編集することで、すぐにカスタマイズ可能です。

	<ul style="list-style-type: none"><li>・書いた内容については、TA等を雇用できる場合は清書前にチェックするようにする。</li><li>・TA等が雇用できない場合は、清書前の下書き段階でチーム内の他のメンバーに内容をチェックしてもらうようにする。</li><li>・下書きが表現上の間違いがないか確認してもらった後、清書をしてポスターを完成とする。</li></ul>
11 ミニポスターセッション	<p><b>【学習活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ポスターをクラス内に掲載し、チームごとに、発表役と聴衆役を決める。</li><li>・ポスターセッションを行い、クラス内での交流を促す。</li><li>・特に同じ古写真を課題資料としたチームごとに最終的な見解が一致したのか、どちらの意見が説得的か議論を行うようにする。</li></ul> <p><b>【評価について(記録に残す評価)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ポスター及びポスターセッションの様子をもとにルーブリックで評価する(目標①)。</li></ul>
12 振り返り	<p><b>【学習活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・単元を通して学んだこととして、「歴史研究の意義や価値」をまとめる。</li><li>・「学びに向かう力・人間性」に関する振り返りとして、グループ活動への貢献度について自己評価、他者評価を行う。</li><li>・単元学習画面の振り返り欄にはできたこと、できなかったこと、今後取り組んでみたいことを記し、自己の成長や学習したことを言語化するようにする。</li></ul> <p><a href="#">▶ミドル探究 4-2「古写真」から始まる歴史研究入門」ワークシート.docx</a></p> <p><b>【評価について(記録に残す評価)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「歴史研究の意義や価値」について、フィールドノートへ自分の経験をもとに書いてもらう(目標②)。</li><li>・さらにグループ活動への貢献度について自己評価、他者評価を行う(目標③)。</li></ul>

(参考)

蒲生諒太・西田彰一, 2020, 「古写真を利用した探究的な学習プログラム:道頓堀をフィールドとした歴史・地理教育の試行記録」, 同志社女子大学教職課程年報(3), pp56-68.

西田彰一・蒲生諒太, 2020, 「歴史教育における探究的な学習プログラムの開発:『観察』と『論証』に焦点を当てた理論的検討と実践の紹介」, 立命館教職教育研究(7), pp35-44.



\_\_\_月 \_\_\_日

(3) フィールドワーク

▶地域に関する説明を書き留めておこう。

- ・
- ・
- ・
- ・

▶現場で得られた情報を書き留めておこう。

- ・
- ・
- ・
- ・

\_\_\_月 \_\_\_日

(4) ポスター発表

▶発表に対する反応を書き留めておこう。

- ・
- ・
- ・
- ・

▶歴史研究にはどんな意義や価値があるか、今回の学習から学んだことをまとめてみよう。



# ポスターテンプレート

▶ミドル探究4-2

タイトル

グループ名  
氏名  
氏名  
氏名  
氏名

タイトル

氏名



ミニ探究・ミドル探究には、  
発表資料の作り方が分かる  
テンプレートを収録。  
見やすく伝わりやすい発表資料の  
作り方を身に付けることができます。

## 調査した古写真

\* 写真を貼る

## 古写真の場所

\* 推測した場所＝結論を述べる

## 場所を特定した根拠

- \* 結論づけた根拠・理由を述べる

## 根拠となる事例①

- \* 根拠の具体例を述べる
- \* 具体例の数だけ、事例②・③…とスライドを増やしていく
- \* 視覚的に伝わるように写真を貼り付けるなど、見せ方を工夫する

(以下略)

# 自己評価シート

## ▶ミドル探究4-2

「古写真」から始まる歴史研究入門 自己評価シート

年 組

★自分の活動を振り返って、自己評価を行ってみよう。

氏名

### ■評価項目

	観点	評価対象物	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する
目標①	情報の収集	ポスター	「観察」「推測」のために適切な情報を収集できている。	情報を収集できているが「観察」「推測」に必要なものが十分ではない。	十分な情報を収集できず「観察」「推測」が行えていない。
	整理・分析		具体的な経験をもとに、歴史研究の意義や価値を説明できている。	具体性が乏しいが、歴史研究の意義や価値を説明できている。	歴史研究の意義や価値を説明できていない。
	まとめ・表現		一貫した論理を持つポスターにまとめることができている。	成果をポスターにまとめられているが、論理的矛盾等の不備が一部で指摘できる。	調べた内容をポスターにまとめているが、書かれた内容から論理がほとんど読み取れない。
目標②	探究の意義や価値の理解	取り組み後の感想	具体的な経験をもとに、歴史研究の意義や価値を説明できている。	具体性が乏しいが、歴史研究の意義や価値を説明できている。	歴史研究の意義や価値を説明できていない。
目標③	主体性・協働性	貢献度アンケートシート	⇒貢献度アンケートシートでの評価。		

### ■自己評価：自分の活動を評価してチェックを入れよう。

目標①	情報の収集	ポスター	<input type="checkbox"/> 十分満足できる	<input type="checkbox"/> 概ね満足できる	<input type="checkbox"/> 努力を要する
	整理・分析		<input type="checkbox"/> 十分満足できる	<input type="checkbox"/> 概ね満足できる	<input type="checkbox"/> 努力を要する
	まとめ・表現		<input type="checkbox"/> 十分満足できる	<input type="checkbox"/> 概ね満足できる	<input type="checkbox"/> 努力を要する
目標②	探究の意義や価値の理解	取り組み後の感想	<input type="checkbox"/> 十分満足できる	<input type="checkbox"/> 概ね満足できる	<input type="checkbox"/> 努力を要する

先生側と同じルーブリックで生徒が自己評価を行えるシートを用意しています。



## 教科での活用

今や教科内でも生徒主体の探究的な学びが求められています。ワークシートと授業展開案が揃っているミニ探究・ミドル探究を活用すれば、教科内での探究活動もすぐに始めることができます。

### 活用例

#### ◆現代の国語

- ・ミニ探究3-5「日本の子育て家庭の課題」
  - ・ミニ探究3-6「自分の暮らす地域の課題」
- ⇒ 実用文・データを読み取る力を鍛えることができます。

#### ◆公共

- ・ミニ探究 2-7「インフォデミック (情報パンデミック) 」
- ⇒ SNS時代のメディアリテラシー・情報リテラシーを考える活動に取り組みます。

#### ◆英語

- ・ミニ探究2-9「CNN教材×SDGsワークシート」
- ⇒ ホットな話題を英語で学んでから、問題解決型学習を行うことができます。

#### ◆情報 I

- ・ミニ探究3-7「持続可能な学校のための CM づくり」
- ⇒ 「情報デザイン」での作品制作に活用できます。

#### ◆保健

- ・ミニ探究1-4「学校の中の危険な場所を探す」
- ⇒ 「安全な社会の形成」を主体的に学ぶ活動が実践できます。

#### ◆数学 I・A×体育

- ・ミドル探究4-3「スポーツパフォーマンスを分析しよう」
- ⇒ 数値の計算・分析を通して技能向上を目指すことができます。

# 調べ学習編 目次 (2024.09.30現在)



マークを付けた項目は、この一部見本でその内容を全てご覧いただけます。

## 探究の前に【事前学習】

- A. なぜ探究を学ぶのか？
- B. 探究で何を学ぶのか？
- C. 活動を記録しよう
- D. グループ学習の基本
- E. 「研究不正」に注意しよう

## テーマの決め方【課題の設定】

◎課題について

- A. 問いのタネを探す
- B. 問いを具体化して育てる
- C. 課題として適切かチェック

Pick Up!

P50

## 情報の集め方【情報収集】

◎必要な情報を収集しよう

- A. まずは図書館で知識を蓄えよう
- B. オンラインサービスを活用しよう
- C. 先行研究を用いて説明しよう

## 情報の整理方法【整理・分析】

A. 集めた情報を整理しよう

- B. 情報整理の方法
- 《応用編》C. 整理した情報を分析しよう
- 《応用編》D. 分析を具体的にまとめてみよう

Pick Up!

P53

## 情報のまとめ方【まとめ】

- A. スライド型ポスターを作ろう
- B. スライド型ポスターを使って発表動画を作ってみよう

## 発表会&振り返りの方法

- A. ポスターセッションをやってみよう
- B. 口頭発表会をやってみよう
- C. 振り返りの会をやってみよう

## アカデミックライティングの基本

- アカデミックライティングを学ぼう (1) 文章の特徴
- アカデミックライティングを学ぼう (2) 主張と根拠
- アカデミックライティングを学ぼう (3) 段落を作ろう

# 単元画面

## ▶ 調べ学習編「問いのタネを探す」

<< 戻る

### A. 問いのタネを探す

#### 📖 学びの流れ

#### 1 まずは興味関心から問いを見つけよう

探究活動において大切なことは、自分自身が何に興味をもって、何を知りたいと思うかです。探究活動を進めていくときの課題の設定も、興味関心、そこから生まれた疑問をスタートにします。

そこでまず、最近のニュースから疑問に思ったことやもっと知りたいと思ったことをたくさん挙げてみましょう。まずは実際に解決ができるかできないかではなく、自身の思いから「？」と思ったことをたくさん挙げてみるのが大切です。



#### Task

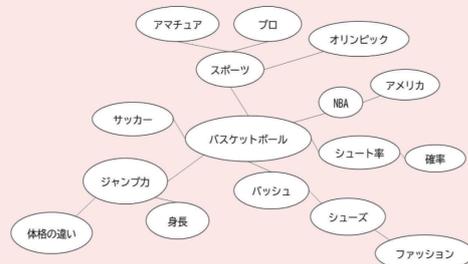
最近のニュースから気になっていることを10個挙げてみよう。

解説を見る

送信

調べ学習編には、  
生徒の探究活動をサポートする「Task」を収録。  
課題の設定から順に「Task」に取り組むことで、  
生徒は探究のプロセスを主体的に  
進めていくことができます。

視覚化してみよう  
興味関心されることをとにかくたくさん挙げてみることで、  
自分の興味はどこにあるかを探ってみましょう。



#### Task

A-1で挙げたものから、興味のあるキーワードを1つ選んで、そ



れに関連する単語や短文をどんどんつなげる、興味関心ツリーを作っていこう。

\*入力欄にはキーワードを書き込んでおき、興味関心ツリーはリンク先からダウンロードしてください。

⇒[interest\\_tree.xlsx](#)

思考ツールのほか、  
文献リストなどの  
テンプレートを用意しました。

解説を見る

送信

### Commentary

連想ゲームと思って、どんなことでもいいので思いついたことはどんどん書いてつなげていきましょう！ 友達と共有するときには、どんな理由でその単語や短文を連想したのかを話し合ってみましょう。

また、興味関心ツリー以外にも、アイデアの連想に便利なツールがあります。こちらを参照してみてください。

⇒[情報の整理方法【整理・分析】](#) [B.情報整理の方法](#)



閉じる

### 3 問いの形にしてみよう

①や②の活動を通して思いついた問い（疑問）があったらリストにし可能かどうか考える必要はありません。

「Task」には解説（Commentary）  
を付けました。生徒自身で  
探究活動のコツを  
身に付けていくことができます。



### Task

疑問文を作ることで「問い」を作ってみよう。

解説を見る

送信

### 💡 まとめ・ポイント

探究活動は自分自身が何に興味をもっているかを考える、すなわち自分自身とじっくり向き合うことができる活動ですが、課題の設定は得てしてこの設定自体が目的となってしまうがちです。そうならないようにするには、自分自身の興味関心がどこにあるかの考えを深めた



調べ学習編では、探究のプロセス一つ一つについて、取り組むときのポイントを解説。事前準備や課題の設定から、発表・振り返りまで扱っています。わかりやすい解説と、解説の理解を深める活動を盛り込み、生徒自身が主体的に進めていける内容構成としています。

り広げたりすること、つまりは「自己との対話」を大事にしてください。

ただ、一人で考えても行き詰ることはよくあります。そんなときにはグループで興味のある内容を共有しあい質問しあうことで新しい発見を得られるかもしれません。（「他者との対話」）

### 🔍 参考

疑問に思ったことやもっと知りたいことを探するのに役立つサイト

#### 1. SDGs

一般社団法人イマココラボ

「SDGs（持続可能な開発目標）17の目標&169ターゲット個別解説」

<https://imacocollabo.or.jp/about-sdgs/17goals/>

#### 2. 日本の社会課題

NPO法人ETIC, 「社会課題解決中マップ」

<https://2020.etic.or.jp/>

#### 3. 地域の経済活動

経済産業省・内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部事務局）

「RESAS 地域経済分析システム」, <https://resas.go.jp/#/13/13101>

#### 4. 異文化理解・国際問題

政策研究大学院大学(GRIPS), 「データベース「世界と日本」(GRIPS)」

<https://worldjpn.grips.ac.jp/front.shtml>

#### 5. インターネット・SNS

総務省, 「インターネットトラブル事例集ダウンロードページ」

[https://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/kyouiku\\_joho-ka/jireishu.html](https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/jireishu.html)

#### 6. 進路

文部科学省, 「学科系統分類表」

[https://www.mext.go.jp/content/20200330-mxt\\_chous](https://www.mext.go.jp/content/20200330-mxt_chous)

\* 「学校基本調査—令和3年度」の付属資料

探究活動に役立つ  
様々なウェブサイトを  
紹介しています。

「Task」やこの「振り返り」に  
入力した内容は生徒自身で後から  
確認できます。  
(入力した内容は先生には  
送信されません。)

### 🔄 振り返り

気になる点や学んだ点があれば書き留めておこう。

# 単元画面

## ▶ 調べ学習編「集めた情報を整理しよう」

<< 戻る

### 入門編 A.集めた情報を整理しよう

「情報の集め方」では、設定した問いの理解や解決につながる、必要な情報を集めました。次のステップではこの情報を整理・分析し、発見した情報の体系化や問いを解決する方法の提案（まとめ・表現）へとつなげていきましょう。

#### 📖 学びの流れ

#### 1 情報の信頼性(信ぴょう性)を確認しよう

集めた情報の発行・発信年月日や著者などをもう一度確認してみましょう。また、複数の情報源にあたったかどうかも改めて確かめましょう。

#### 2 情報の整理の手段を考えてみよう

情報を整理するときには、次のツールを使うことが多いはずですが。これらにはそれぞれメリットとデメリットがあります。

1. パソコン
2. ノート
3. その他（付箋など）



#### Task

それぞれのメリットとデメリットを考えてみよう。

解説を見る

送信

#### 3 集めた情報を適切な情報源ごとに振り分けて、整理しよう

振り分け方の例としては以下のものが考えられます。「情報の集め方」では主に文献からの情報収集に触れましたが、場合によっては他の情報源から収集する必要も出てきます。

1. 文献
2. インタビュー
3. アンケート
4. 実験・観察
5. その他（オンラインデータベースなど）



### Task

2.~4.それぞれの情報源から得られる情報の特徴を整理してみよう。

解説を見る

送信

### まとめ・ポイント

情報社会に生きる私たちにとって、無限の情報の中から本当に自分に必要なものを取捨選択し、その情報を必要な時にいつでも取り出せるようにする「情報の整理」は大変重要なスキルの一つになっています。しっかりと整理の手法を身につけていきましょう。

調べ学習では、情報を「文献」のみで集めた場合も多いかもしれません。アンケートやインタビュー、実験・観察などの手法も場合によって使っていきます。これらの手法については、次の「課題研究編」で詳しく扱います。

### 振り返り

気になる点や学んだ点があれば書き留めておこう。

送信

# 課題研究編 目次 (2024.09.30現在)



マークを付けた項目は、この一部見本でその内容を全てご覧いただけます。

## 探究の方法論

- (1) さまざまな探究
- (2) 探究のストーリー
- (3) 文系の探究・理系の探究(仮説について)
- (4) 問いの立て方と仮説について
- (5) 概念の検討とモデルづくり

## 課題の設定・情報の収集：研究計画を立てる

- (1) 実験
- (2) **実験ノート**
- (3) フィールドワーク
- (4) アクションリサーチ
- (5) アンケート
- (6) インタビュー
- (7) シミュレーション
- (8) 計測
- (9) 調査ツール①
- (10) 調査ツール②
- (11) 研究計画書

Pick Up!

P56

## 整理・分析：分析方法

- (1) 統計の手法
- (2) 表計算ソフトの使い方
- (3) 質的データの分析
- (4) 画像解析

## まとめ・表現：考察を深める

- (1) 政策提言の書き方
- (2) 根拠に基づく考察の方法

## まとめ・表現：探究成果のまとめ方

- (1) 図表のまとめ方
- (2) スライドの作成
- (3) ポスターの作成
- (4) 概念図の作成

## まとめ・表現：探究成果の発表方法

- (1) 発表の仕方
- (2) **オンライン発表の仕方**
- (3) レポート・論文の作成

Pick Up!

P59

## まとめ・表現：成果報告会と振り返り

成果報告会の運営  
振り返りとその蓄積

ミニ探究

ミドル探究

調べ学習編

課題研究編

ツール・シラバス

# 単元画面

## ▶ 課題研究編「実験ノート」

<< 戻る

### (2) 実験ノート

 関連する学び

理科

 学びの流れ

研究課題を設定し、実験を始めようとする際に確認したいポイントについて説明します。「実験ノート」を作成することで、取り組む探究を常に振り返ることができるようにしましょう。

#### ◆ 実験ノートとは？

実験ノートとは、どんな実験をどのように行ったか、またそれによってどんな結果が得られたのかを逐次記録していくノートのことです。「研究ノート」や「ラボノート」と呼ばれることもあります。

#### 1. 実験ノートの目的と重要性

##### ◆ 実験の進捗状況について記録する

日々の実験の記録をとっておくことで、のちのデータ分析や研究発表の際に活用します。

##### ◆ 振り返り、次にすべきことを明らかにする

逐次、実験の進捗状況を記録することで新たに見つかった課題や改善点から次の実験への手掛かりとします。

##### ◆ 実験を実際に行ったことの証拠となる

もし、研究不正を疑われることがあった場合、物的証拠となるものとして実験ノートがあります。

#### 2. 実験ノートを書くにあたっての注意

上記の目的から、以下のことに注意しましょう。

##### ◆ 誰でも読んでわかるように書く

この実験ノートは自分だけが読めればよいというわけではありません。後に誰かがその実験を再現したり確認したりできるようにするためのものでもあるため、丁寧に記録しておくことが大切です。

##### ◆ ボールペンなど訂正のできない文房具で書く

実験ノートは論文ではありません。間違えたことも大切な記録となります。むしろ訂正することで後に不正を疑われることにもなるため、訂正できないペンを用いましょう。

◆ばらばらにならないノートに記録する

実験の内容が時系列にすべて書かれていることが大切です。そのためルーズリーフやレポート用紙ではなく、1冊のノートを使うようにしましょう。

\*捏造・改ざんといった研究不正は絶対に行ってはいけません。詳しくは以下を参照してください。

⇒【調】探究の前に【事前学習】：E.「研究不正」に注意しよう

3.実験ノートに書く内容

◆実験まで

・日付

記録するにあたって必要不可欠です。年・月・日がわかるように書きましょう。場合によっては時刻も記録するとよいでしょう（時刻は実験するときでもよいです）。また、実験の種類によっては天気や気温、湿度などを記録しておく必要がある場合もあります。

・目的

毎回の実験では必ずその日に目指す目的があるはずですが、実験前に書いておくことで、より意識をもって実験に臨むことができます。

・実験で使う道具

可能な限り必要であると考えられる道具はすべて書いておきましょう。またどれくらい使用するかも書いておくとよいでしょう。

・実験の手順

いきあたりばったりで実験するのではなく、どんな手順で行うかをシミュレーションしておきましょう。そうすることでもし当日トラブルがあったとしても対応できるようになります。実験の手順や道具、方法などについては、大丈夫かどうか先行研究を参照したり、詳しい人に見てもらったりするとよいでしょう。

◆実験中

・想定した道具や手順との違い

事前を書いておいた道具や手順から変更があった場合、もちろん記録しておきます。後日発表や論文でまとめる際には、当然実際に行った道具や手順をまとめることとなります。

・実験結果の記録

実験結果については適宜記録していきましょう。何人かで実験を行う場合には役割分担を明確にしておくともよいです。

・気づいたこと、考えたことなどを記録する

実験をすることによって得られた新たな気づきや疑問点、困ったことなども逐次記録していきましょう。どんなことがこの後のヒントになるかわかりません。

◆実験後

・考察

その日の実験結果からどんなことが考えられるかを書きます。

調べ学習編より高度な内容を扱う課題研究編では、基本に立ち返れるよう、調べ学習編へのリンクを多数設定しています。



課題研究編には、論文執筆をゴールとするような高度な探究活動であっても、これさえ読めば生徒が自ら取り組める情報を盛り込みました。実験・フィールドワークなど様々な情報収集の手立てから、生徒自身による成果発表会の運営方法など、多岐にわたるテーマの解説を掲載しています。

・次回に向けて  
今回の実験からわかったことを生かして次にどうつなげていこうと考えるかを書いておきましょう。

《コラム》予想と異なる結果が出てしまったら...  
実験をする際には結果を予想して（仮説を立てて）実験を行うことになると考えられますが、予想と異なる結果を得たとしてもそれが悪いことではありません。むしろ、そこから面白いところです。なぜ予想と違う結果となったのか、その原因についてしっかりと考察しましょう。

計測方法で誤差が生まれたのか、事前に予想したものと違う因子が結果に影響を及ぼしたのかなど様々な理由が考えられるはずです。もし、すべての実験を順調に進めた結果、予想と違う結果になった場合、それは新たな結果を得たといえるでしょう。

また、もし予想通りの結果になったとしても、それで満足することなく、その結果が偶然ではないことや、予想通りの結果が得られた理由なども考えておきましょう。何より、都合の悪い結果となったからと言って、結果を改ざんすることだけはしないようにしましょう。

### 📝 チェック

自分がどこまでできるようになったか、チェックしてみよう。

- 実験ノートの意味を理解し、書くべき内容について具体的に想像できた。

課題研究編には、各項目の理解度を自ら確認できる「チェック」を収録。取り組み方が把握できたかどうか、生徒自身による理解を促します。

送信

### 🔄 振り返り

気になる点や学んだ点があれば書き留めておこう。

送信

「振り返り」に入力した内容は生徒自身で後から確認できます。（入力した内容は先生には送信されません。）

探究活動では、生徒の思い通りに進まないことがよくあるもの。「コラム」ではこうしたつまずきへの対処法など、生徒の活動をバックアップする情報を掲載しています。

# 単元画面

## ▶ 課題研究編「オンライン発表の仕方」

<< 戻る

## (2) オンライン発表の仕方

### 📖 学びの流れ

様々な場所でオンラインでの発表する機会が増えてきました。オンラインは現地での発表に比べると刺激が少なく、また、誘惑の多いオンライン環境においては聞き手の集中力が低くなってしまいます。こうした注意点があるオンライン発表を成功させる上で、特に意識しておかなければいけないのはどのようなことか、確認しましょう。

#### 1. 対面での発表よりもさらに見やすく、わかりやすく

ポスターやプロジェクタースクリーンなどと比べ、圧倒的に小さな画面サイズでの視聴であることから、文字を追うような発表は非常にストレスになります。オフライン以上に見やすさや1枚のスライドの情報量を絞るように心掛けましょう。

#### 2. カメラに視線を向けて話す

カメラの位置がPCの上にある場合、発表資料を見ながらの発表では、相手にうつむいて見えてしまいます。なるべくカメラ視線にすることで聞き手を意識していますよというサインを送りましょう。



○カメラに視線を向けている。

×発表資料に目が向いている。

#### 3. 表情に動きを、声に抑揚を

画面上のやり取りにおいて、相手を引き付ける空間を作るのはとても難しいことです。少しでも発表に意識を向けてもらうために、表情を豊かに、声に抑揚のある発表を目指しましょう。

#### 4. 画面に適度な動きを付ける

例えば、パワーポイントにもGoogleスライドにも標準で備わっている、以下の機能を活用する手があります。

- ・アニメーション
- ・レーザーポインター

これらの機能を用いることで視覚情報の道筋をわかりやすく伝えることができ、聞き手のストレスを減らせるようになります。ただし、アニメーションの多用は、聞き手を疲れさせる場合もあるので禁物です。

また、発表会やプレゼンの内容によっては、アニメーションの使用が不適切な場合もあるので注意が必要です。研究に関して専門家に見てもらったときなどは、動きを付けられない方がいい場合もあります。どのような発表会で、聞き手がどのような人たちかなどから総合的に判断しましょう。

## 🔍 参考

- ・ PowerPointでのレーザーポインター表示方法：  
Microsoft サポート, マウスをレーザーポインターに変更する,  
<https://support.microsoft.com/ja-jp/office/%E3%83%9E%...>
- ・ Googleスライドでのレーザーポインター表示方法：  
Google Workspace ラーニングセンター, スライドでプレゼンテーションを行う,  
<https://support.google.com/a/users/answer/9439917?hl=ja>

探究活動の  
実践的な手法に役立つ、  
社会人も参考とするような  
ウェブサイトを掲載しています。

## 📖 学びの流れ

### 5. 事前にオンライン環境の確認を行う

いくら内容が良くても、オンライン環境が不安定になれば、聞き手の集中はその瞬間になくなってしまいます。自身のオンライン環境が適切かを確認するのはもちろんですが、作成した資料のファイルの大きさや発表時間帯の環境要因も考慮しながら、不測の事態に対応できる準備（短い動画を用意する、写真の数を減らす、ファイルサイズを落とすなど）もしておきましょう。

## 📝 チェック

自分がどこまでできるようになったか、チェックしてみよう。

- 対面プレゼンよりもさらに見やすさ、わかりやすさを意識するようになった。
- 視線をカメラに向けて話す必要性を理解した。
- 表情に動きを、声に抑揚をつけることを意識するようになった。
- 画面に適度な動きをつけるのを心掛けるようになった。
- 事前にオンライン環境の確認を行うようになった。

(以下略)

適切な取り組み方を  
理解できたかどうか確認できる  
「チェック」も収録しています。



# 教員用サポート資料

生徒への接し方やファシリテーションのあり方、校内体制の作り方といった、探究活動で常に課題となるポイントを解説した指導資料を用意しました。この資料は、探究活動の経験が豊富な高校教員が中心となって作成したものです。現場の"リアルな"困りごとへの対応を事例を交えて解説しています。

## もくじ

### 第1章 探究自体の理解

- 1.なぜ総合的な探究の時間？改定の趣旨は？
- 2.総合的な探究の時間を学校にどう位置付ける？
- 3.探究の流れ、プロセスとは？
- 4.探究の3条件とは？
- 5.探究を回すとは？
- 6.地域課題解決型探究活動の3レベルとは？
- 7.探究のレベルを上げるにはどうするか？
- 8.探究学習と調べ学習の違いとは？
- 9.探究と研究の違いとは？

### 第2章 生徒指導

- 10.探究のプロセスにおける指導のポイントとは？
- 11.生徒は各プロセスのどこでつまずき、それをどう乗り越えるか？
- 12.探究における教師行動とは？
- 13.質問力をどう磨く？
- 14.生徒が主体的に取り組むためにはどうすればいいか？
- 15.探究のゴールをどうやってイメージさせればいいのか？
- 16.グループ探究にどう関わればいいのか？

### 第3章 校内体制

- 17.探究を進めるための校内体制をどう構築するか？
- 18.探究を全校的な取組とするには？

### 第4章 教科との関連

- 19.他教科、科目における探究との違いは何か？
- 20.専門外の指導を行う場合どうすればいいか？

### 第5章 外部連携

- 21.どうやって外部連携を進めればいいのか？

### 第6章 SDGs

- 22.SDGsの17ゴールと169ターゲット一覧

### 第7章 課題の設定

- 23.探究課題はどうやって決めればいいのか？
- 24.「問題」と「課題」の違いとは？

### 第8章 情報の収集

- 25.情報収集の指導をどうするか？
- 26.情報のバランスとは？

### 第9章 まとめ・表現

- 27.探究における発表活動の位置付けとは？

### 第10章 振り返り

- 28.振り返りにはどのようなことを書くか？

### 第11章 評価

- 29.探究の評価はどう考えればいいのか？
- 30.探究の評価はどのように行えばいいのか？
- 31.評価では何に気をつけていけばいいのか？
- 32.探究の成果物をどのように評価すればいいのか？
- 33.簡易版探究評価ルーブリック
- 34.「ポートフォリオ評価」とは？
- 35.「ブルームの分類学(タキソノミー)」とは？
- 36.「ICEモデル」とは？

### 第12章 《動画》探究活動の進め方

- 37.《動画リンク集》「探究活動の進め方」

# ツール活用例

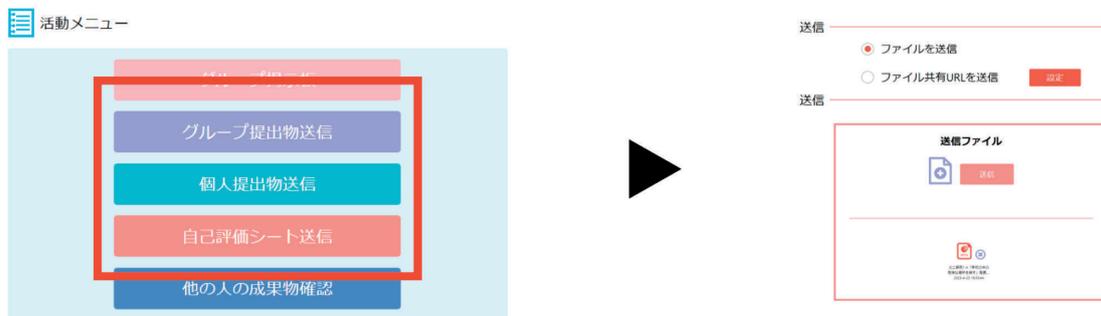
## ▶ 成果物の提出・確認

ツールとして学習管理機能を用意しているので、生徒の成果物提出、先生側での成果物確認と評価、履歴の保存がオンライン上で行えます。

### ① 生徒画面での成果物の提出

#### ◆ 「ミニ探究」「ミドル探究」

生徒は、「ミニ探究」「ミドル探究」の成果物を「活動メニュー」の「提出物送信機能」を使って提出することができます。



▲ 「ミニ探究」生徒画面

#### ◆ 「調べ学習編」「課題研究編」

生徒自身で課題を設定した探究活動や、学校独自の探究課題の成果物は、「調べ学習編」「課題研究編」の「提出物送信機能」を使って提出することができます。



▲ 「調べ学習編」生徒画面

#### ◆ 成果物の確認…「学習履歴」

生徒は、提出した成果物を「学習履歴」からいつでも確認することができます。



▲ 「学習履歴」生徒画面

「ミニ探究」「ミドル探究」の単元を選ぶと、その単元で提出した成果物を確認することができます。

## ② 先生画面での成果物の確認と評価

### ◆ 「ミニ探究」「ミドル探究」

「ミニ探究」「ミドル探究」での生徒の成果物を、先生は「活動メニュー」の「提出物・評価入力機能」から確認することができます。

▲ 「ミニ探究」先生画面

▲ 「提出物・評価入力」先生画面

生徒一覧

名前	知識	技能	探究の意義や価値の理解	課題
テスト生徒	★ ★ ☆	★ ★ ☆	★ ★ ★	★
テスト生徒_59	☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆	☆
テスト生徒_49	☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆	☆
テスト生徒_52	☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆	☆

▲ 「評価入力」先生画面

提出物・評価入力画面で「評価入力」を選択すると、クラス単位で生徒の評価を行うことができます。評価のためのルーブリックも用意しています。

### ◆ 「調べ学習編」「課題研究編」

「調べ学習編」「課題研究編」の成果物確認や評価入力は、「生徒管理」から行うことができます。

▲ 「生徒管理」先生画面

教材を選ぶと、成果物を確認できます。成果物の確認や評価の入力方法は、「ミニ探究」「ミドル探究」と同じです。

\* 「ミニ探究」「ミドル探究」については、「生徒管理」で成果物や評価の確認を行うことができます。

# シラバス案4例

## ◆例①：「ミニ探究」「ミドル探究」を1年間使うーその1

1年生でのご利用で多いパターンです。「ミニ探究」「ミドル探究」から教材をピックアップして、1年間総合的な探究の時間に取り組みます。

月	単元	学習項目
4月	探究ガイダンス	オリエンテーション 講演「探究学習について」
5月	ミニ探究①	①1-1「自分の好きなモノ紹介」
6月	ミニ探究② ミニ探究③	②1-4「学校の中の危険な場所を探す」 ③1-3「クラス（チーム）ルールをクリエイティブしよう！」
7月	ミニ探究④	④1-7「オープンキャンパスへ行こう！」
9月	ミニ探究⑤ ミニ探究⑥	⑤3-3「アンケートを作ってみよう」 ⑥1-8「仕事を知ろう」
10月	ミニ探究⑦	⑦2-7「インフォデミック（情報パンデミック）」
11月	ミニ探究⑧ ミニ探究⑨	⑧2-6「SDGs入門」 ⑨2-8「脱炭素社会構築のアイデア（ジグソー法）」
12月	成果発表	⑨の成果発表会
1月	ミドル探究⑩	⑩4-3「スポーツパフォーマンスを分析しよう」
2月		
3月	成果発表	⑩の成果発表会

## ◆例②：「ミニ探究」「ミドル探究」を1年間使うーその2

こちらも1年生でのご利用で多いパターンです。様々な行事をこなしつつ、「ミニ探究」「ミドル探究」を使って探究の力を育成していきます。

月	単元	学習項目
4月	探究ガイダンス	1年間の学習予定
5月	ICTスキル養成 ミニ探究①	端末・ソフトの使い方 ①3-4 「“NASAゲーム”でグループワークの良さを実感」
6月	キャリア学習	講演会+事前事後学習
7月	ミニ探究②	②2-6 「SDGs入門」
9月	進路ガイダンス	分野別懇談会／社会人ワークショップ
10月	秋祭り参加	地域の祭りにボランティアで参加
11月	ミニ探究③	③3-2 「紙コプター」
12月	ミドル探究④	④4-2 「「古写真」から始まる歴史研究入門」
1月		
2月		
3月	成果発表	④の成果発表会

## シラバス案4例

### ◆例③：経験が必要な力の育成に「ミニ探究」を活用する

学校で探究課題を決めている際に見受けられるパターンです。整理・分析など、生徒自身が手を動かさないと身につかない力を「ミニ探究」の実践で培います。

月	単元	学習項目
4月	探究ガイダンス	1年間の学びの概要
5月	ICT活用法	ICT環境の設定、モラル・リテラシー
6月	進路研究	文理選択を考える
7月	課題研究	地域の活性化を考える／外部関係者の講演
9月	同上	情報の整理 (ミニ探究2-1「名言、格言、キャッチコピーの違いとは」)
10月	同上	情報の分析(ミニ探究2-2「AとBどちらがいいか?」) 情報のまとめ
11月	同上	発表資料の作成
12月	同上	プレゼンテーション方法を学ぶ
1月	同上	リハーサル
2月	研究発表①	クラス発表
3月	研究発表②	代表発表

## ◆例④：「調べ学習編」「課題研究編」を活用して個人で取り組む

生徒一人ひとりが自ら課題を設定して探究活動に取り組むときの活用パターンです。「調べ学習編」「課題研究編」の情報を頼りに探究活動を進めていきます。

学期	学習内容
1学期	<b>【課題の設定と研究計画書の作成】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書としてアクチュアルを利用。</li> <li>生徒一人ひとりが、興味・関心に基づきテーマを設定する。</li> <li>課題解決や仮説検証を行うため、研究計画書を作成する。 *計画書はアクチュアルに収録されたテンプレートを活用する。</li> </ul>
	<b>【研究論文の作成】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究計画書に基づき、研究論文の作成を開始する。 *論文の作成方法は、アクチュアル「課題研究編」を参考にする。</li> <li>課題解決や仮説検証のため、フィールドワークを実施する。 *フィールドワークの実施方法は、アクチュアル「課題研究編」を参考にする。</li> </ul>
2学期	<b>【研究論文の中間発表】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>中間発表用のポスターを作成する。 *ポスターの作成方法は、アクチュアル「調べ学習編」「課題研究編」を参考にする。</li> <li>中間発表を行い、プレゼンテーション能力を磨く。 *プレゼンテーションの実施方法は、アクチュアル「課題研究編」を参考にする。</li> </ul>
	<b>【研究論文の見直し・完成】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>中間発表での他者からの意見に基づき、論文の内容を修正する。</li> <li>課題解決や仮説検証のため、再度フィールドワークを実施する。 *フィールドワークの実施方法は、アクチュアル「課題研究編」を参考にする。</li> </ul>
3学期	<b>【研究論文の完成・発表】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表用ポスターを作成し、最終プレゼンテーションを行う。 (クラス → 学年 → 学校全体)</li> <li>研究論文を提出する。</li> </ul>

# 導入後の課題を解決！ 研修・サポート体制

**主な研修プラン** …円滑な授業運営や効果的な活用をサポートします。

- 導入研修 ▶ 授業を想定した操作方法を具体的に説明します。
- 活用研修 ▶ 利用中も定期的に操作・授業の両面で  
お困りの点や課題を解決します。
- 授業計画サポート ▶ 学校の到達目標や年間計画に合った  
“アクチュアル”の活用方法を提案します。

## よくあるご質問

**Q. 学校独自の課題を“アクチュアル”で取り扱えますか？**

**A. はい、取り扱えます。**

「お知らせ送信機能」と調べ学習編や課題研究編の  
「提出物送信機能」を組み合わせることで、独自課題も  
“アクチュアル”内で取り扱え、情報の管理を一元化できます。

**Q. 提出物にコメントを付けて返すことは可能ですか？**

**A. はい、可能です。**

コメント（掲示板）機能を用意しています。提出物を返す  
タイミングで、生徒へフィードバックを行うことができます。

**Q. 導入後に何か初期設定は必要ですか？**

**A. 教員・生徒それぞれの情報をご登録いただきます。**

ID・パスワードを学校で管理しやすいものへ変更することも  
可能です。また、Google アカウントをご利用であれば、  
その Google アカウントでログインができます。

## 編集委員

探究の経験豊かな教員が中心となって  
教材を作成しました。

- 米田謙三 \*代表  
早稲田摂陵高等学校
- 上山晋平  
福山市立福山中・高等学校
- 藤原亮治  
筑波大学附属坂戸高等学校
- 紀平武宏  
京都市立堀川高等学校 [当時]
- 蒲生諒太  
立命館大学OIC総合研究機構

## 教員用IDについて

生徒用 ID を学年単位あるいは  
コース単位以上で一括導入して  
いただくことで、先生用画面も  
お使いいただけます。

## 動作環境

### 対応OS・ブラウザ

- ・Windows10・11 / ChromeOS / iPadOS  
で動作します。  
(ChromeOS・iPadOS は最新版推奨。)
- ・ブラウザを使用します。各OS 標準搭載の  
Microsoft Edge・Google Chrome・Safari の  
最新版を推奨します。

### インターネット環境

- ・ご利用の際にはインターネットへの接続が  
必要です。
- ・ワークシート等ダウンロードしたファイルは  
オフラインでお使いいただけます。

### シングルサインオン

- ・Google アカウントによる  
シングルサインオンに対応しています。

### 複数端末からのログインについて

- ・1つの ID で複数端末からのログインが  
可能です。



大修館 探究オンライン

“アクチュアル”の最新情報は  
こちらでご確認ください。

“アクチュアル”特設サイト  
<https://lp.actual.quest/>



## 販売総代理店

紀伊國屋書店

株式会社紀伊國屋書店 学校教育営業部  
〒153-8504 東京都目黒区下目黒3-7-10  
☎: 03-5719-2501  
✉: school@kinokuniya.co.jp

## 開発・運営

大修館書店

株式会社大修館書店 デジタル事業開発部  
〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1  
☎: 03-3868-2603  
✉: inquiry\_dr@taishukan.co.jp

## お問い合わせはお近くの支店まで

- 東京 ☎: (03) 3934-5110
- 北海道 ☎: (011) 685-8439
- 東北 ☎: (022) 287-8201
- 関東 ☎: (042) 723-8891
- 東海 ☎: (052) 792-2911
- 関西 ☎: (072) 625-5624
- 九州 ☎: (092) 925-2970